



Ritsumeikan University  
College of Letters

# 教学の手引き

2005

中国文学専攻

文学部

# Table of Contents

## 中国文学専攻

---

### ■ 中国文学専攻 教学紹介

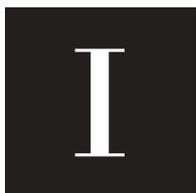
① 教学目標と理念、科目の位置付け .....	3
② 中国文学研究入門について .....	6
③ 卒業論文について .....	11
④ 共同研究室と人文系文献資料室（文献資料室）の利用について .....	16
⑤ その他 .....	19
⑥ 中国文学を学ぶための参考書（主として日本語で書かれた図書） .....	19
⑦ 中国文学関連Webサイト .....	34
⑧ 中国文学基本書解説（50音順） .....	35

### ■ 履修方法とユニットプログラム、履修モデル

① 科目一覧 .....	42
② 履修方法 .....	42
③ 受講登録上の注意 .....	43
④ ユニットプログラム .....	44
⑤ 履修モデル .....	46

### ■ 学修を進めるにあたって

① 文献資料室と共同研究室 .....	49
② クラスロッカーの使用方法について .....	49
③ セミナーハウスの正課用利用の手引き .....	50
④ 学生印刷室の利用について .....	51
⑤ 自主ゼミ援助制度について .....	52
⑥ 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて .....	52
⑦ 清心館「学生談話室」の利用について .....	53
⑧ 立命館大学人文学会 .....	53
⑨ 文学部事務室について .....	54



# 中国文学専攻 教学紹介

中国文学は本来英米文学などと同じ外国文学ですが、我が国には「漢文学」の永い伝統がありますので、今も、いわゆる「漢文」を中国文学と見ている人が相当多数存在しています。しかし、この「漢文」はあくまで中国文学の一側面に過ぎず、三千年の歴史を有する中国文学は各分野に膨大な文学遺産をのこす一大世界文学なのです。中国文学を学ぶ諸君は、どの分野を選ぼうとも、必ずや興味深い未知の世界にわけ入る興奮を感じるでありましょう。

中国文学専攻では、「古典」の学習を縦軸として位置づけ、1～3回生の小集団教育においては「古典」を課しています。これは、悠久の歴史をもつ中国文学の性質上、たとえ現代の文学や思想を研究する場合においても、「古典」の学習が必須であるとともに、他国には見られない「漢文学」の良き伝統を活かし、独自の中国文学研究を発展させるためにも甚だ有益であるからです。それはまた、将来、教職などにつく場合は勿論のこと、一般に「国文学」をはじめ、わが国の文化全般を考える上においても、中国の「古典」を学習することは最も重要であるからです。

さらに中国文学専攻では第一外国語として中国語を必須としています。それは、中国語の学習が専攻教学の横軸をなすものと位置づけているからです。とりわけ現代文学・思想を学ぼうとする場合は、とくに中国語の学習に努力し、その上で現代文学関係の講座を受講し、翻訳に頼ることなく、直接作品を分析・検討する力をつける必要があるからです。

## 1 1 教学目標と理念、科目の位置付け

### 教学目標と理念

1 回生の「研究入門」では、中国文学の主流である漢詩の歴史を通して、中国文学研究の意義・目的・方法を学習し、広く専門的基礎知識を確実に修得することを目標としています。

2 回生の「基礎講読」では、広く散文の歴史や各作家の特徴・問題点を学ぶことを通して、正確で緻密な読解力の養成と基礎的な研究法を獲得することを目標としています。この「研究入門」「基礎講読」の学習により、4 回生時に各自が卒業論文を書く際に、是非必要となる基礎的な読解力や研究法が早めに身につけられるように配慮しているのです。

これらの小集団教育科目と相互補完関係にある 1 回生「漢語・漢文法」は、近年、高校で漢文の学習が不足していることを考慮して、初歩的な漢文読解力をつける目的で設けられています。

3 回生の「講読演習」は、中国文学の基礎知識を修得したものが、さらに一歩進めて、作家や作品の真相を究明するために必要な知識や方法を修得するべく、さまざまな訓練をする場です。具体的には典故の調査や各種文献の閲読を通じて、原典を正確に読解するための高度な訓練をしたり、文学史上の問題点を見つけ出し、その特徴を追究することを目標としています。

4 回生の「演習」は、四年間の総決算である卒業論文を斬新で独自性のあるものに仕上げるとともに、自己と異なった他人の、多様な考え方を学び、柔軟な思考力を修得し、社会に適應する有用な人材に成長することを目標としています。

### 科目の位置付け

#### 1. 1・2 回生小集団教育科目

「研究入門」は、比較的馴染み易い詩のジャンルを中心に、主として日本語で書かれた文献によりながら、詩経から清代までの韻文の歴史や各時代の特徴・問題点などを学び、中国文学研究に必要な基礎資料・工具書および基礎知識・研究法を学習します。それはグループ研究の発表形式を軸として展開されます。十分なグループ討議を経た密度の高い発表ができるよう心がけてください。

「基礎講読」は、漢文や中国語で書かれた文献によりつつ、漢から宋までの各種文体の散文を読解することを通じて、その歴史の変遷を学習します。「研究入門」と同様、専攻だけで受講し、グループ研究の発表形式で行うものですから、ぜひ読解力の向上のみならず、活気あるクラスづくりを目指してください。

#### 2. 3・4 回生小集団教育科目

「講読演習」は、A、B、Cの3クラスに分け、A、Bは古典文学、Cは現代文学を対象とします。それぞれのテ

テーマとテキストについては、担当教員の専門分野や学生諸君の要望をも勘案して決定します。

4 回生演習は各自のテーマにそった資料の収集と解説、難解な文献の会読、関連論文の合評などを通じて、問題点を整理し、論文の書き方を学ばせるとともに、順次中間発表をさせる形式をとります。この「演習」は、A、B、Cの3クラスに分け、A、Bは古典文学・思想、Cは近世白話・現代文学を対象とします。A、Bは担当教員の専門分野と学生諸君の研究テーマを勘案しつつ、時代を六朝以前と唐以後に分けます。3 回生を終える前に、ほぼ自分の研究テーマを決め、自分のテーマに合ったクラスが選択できるようにしておく必要があります。参考までにテーマの例を挙げてみましょう。

### テーマ例

古典文学では、例えば六朝の陶淵明、唐代の李白、杜甫、李賀、白居易、宋代の蘇軾といった詩人などについて、各自が生きた時代やそれぞれの生涯を通し、また文学史を視野に入れて各詩人の文学的特質を考察する作家論的研究が従来多く行われてきました。この方法は近・現代文学研究でもおおそ同様で、魯迅などを対象に様々な研究が行われています。また一つの題材が時代の流れによって様々な展開を見せてゆく過程を追求することで、中国の文学や文化、民族性の特色を浮き彫りにするという研究もあります。「龍」を問題に取り上げるのも面白いでしょうし、梅などの「花」が時代によってどのように詩に詠われていったか変遷を探るのも興味深いでしょう。近世白話文学に関心を寄せる諸君も多くいます。例えば『三国志演義』の關羽が神格化される過程を研究することは、中国民衆の心や宗教観を理解する一つのよい手がかりを与えてくれます。

思想の領域では、近年、竹簡や帛書といった文献の出土発見が相次ぎ、これらを用いた古代思想の研究が盛んです。いま思想分野は、最新の資料で古代思想をあらたに考察する「清新」な研究領域になっています。

近年の傾向としては、中国茶や料理を研究したり、あるいは活況を見せている中国映画を取り上げたりした文化的方面の卒業論文が増えています。中国文学専攻の研究テーマは中国の大地同様に広大で、文学、思想、文化、芸術（例えば書法・音楽）など様々な分野に広がっていますし、さらには漢字文化圏に属する日本との関係にも及んでいます。知的関心を誘うテーマは無数にあるといえます。ただ皆さんに求められるのは、興味をもって意欲的に学ぼうとする志と実行です。

## 3．講義諸科目

普通講義は、「中国文学概論 ・ 」、「漢語・漢文法」「中国文学史 ・ 」、「中国文学史 ・ 」、「中国哲学史 ・ 」の5科目を開講します。これらは中国文学の研究を進めていく上に直接必要な科目ですから、担当セメスターにしたがって、できるかぎり多く受講して、広範な専門知識の修得に努めてください。

「中国文学概論 ・ 」(1 回生以上)は、中国文学の各種ジャンルを作品の紹介などを通して概説します。「研究入門」では詩が中心ですから、その他のジャンルの作品は、この「概論」によって把握し、中国文学の特徴などの理解に努めてください。「漢語・漢文法」(1 回生)は、漢文の初歩を学ぶことに力点を置いた漢文語法の概説をします。また、「中国文学史 ・ 」(2 回生以上)は六朝以前の文学変遷史、「中国文学史 ・ 」(2 回生以上)は唐代以後の文学変遷史を講じますが、年度によってとりあげる時代が変わるので注意してください。「中国哲学史 ・ 」(2 回生以上)は、儒学・老荘をはじめとする中国思想の変遷史を概説します。中国の思想は、文学と不即不離の関係にあり、直接影響するところも多いので、できるかぎり受講することを望みます。

特殊講義は、「中国文学特殊講義 ・ 」、「中国文学特殊講義 ・ 」、「中国哲学特殊講義 ・ 」の3科目(いずれも2 回生以上)を開講します。これらは、中国文学・中国哲学に関する個別的で多岐にわたる特殊専門的な問題を取り上げて、最近の研究状況や研究法を詳細に講じるものです。これによって、あるいは個別専門的な研究の状況や研究法を学び、各自の研究課題の発見や解決に益することが可能です。なお、「中国文学特殊講義 ・ 」は古典文学、「中国文学特殊講義 ・ 」は現代文学を対象とします。

## 4．講読科目

中国文学で扱う文献は主として漢文あるいは中国語で書かれています。翻訳に頼るのではなく、原文を正確に読解する力がなければ、研究に支障をきたします。この中国文学研究必須の正確な読解力を養成するために「中国文学講読演習」が設けられています。

漢文では、1 回生時の「研究入門」、「漢語・漢文法」、2 回生時の「基礎講読」で読解力の養成にあたりますが、2・3 回生では「講読演習」を開設し、さらに読解力の充実に努めることにします。原則としては、「講読演習」

は複数開講され、古典の韻文、散文を対象とするものおよび現代文学に分かれます。ただし、この原則は担当教員の専門分野や学生諸君の要望などを勘案して変更する場合があります。

中国語では、1・2回生で受講する第1外国語科目として中国語、さらに3回生以上の外国文化講読（中国語）のほかに、3回生において専攻科目として現代文学を対象とする「講読演習 -C」が用意されています。中国語は、将来現代文学を研究しようとするものはもちろん、古典を研究対象とするものも必須とします。現代文学を卒業論文の対象とする者は、必ず「講読演習 -C」を受講すると同時に、中国語も受講し、着実な語学力を修得しておくことが望まれます。なお、副専攻の中国語の履修も積極的に取り組んでください。また「中国語検定対策講座」も設けられています。

## 5．インスティテュート科目

本文学部には、1996年度より従来の専攻単位では包括しきれない学際的な分野を研究するインスティテュートが新設されました。中国文学専攻の諸君もこのインスティテュートの開設する講座を受講することができます。中国文学を専攻するものも単に専攻開設の講座のみに満足することなく、可能な限りインスティテュートを始め、他専攻開設の講座（例えば東洋史概説～）を受講し、広範な情報を摂取・処理する方法を習得し、自らの学習・研究に利用し、向上に努めるべきです。そうした意味から、インスティテュート科目に設置されている学際プログラムの「比較文化論・」、 「社会思想史」、 「オリент美術史」、 「比較文学特論・」、 「人間と環境」、 「歴史認識・叙述の諸問題」、 「文化人類学・」などは中国文学を学習・研究する上において有益なものと考えられます。

## 6．テーマリサーチ型ゼミナール

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。

3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。

テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をして頂きたいと思いますが、以下に2005年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2005年度3回生ゼミテーマ（例）

他者問題と文化理解、文化としての「移動」2、京都から発信する京都文化学、辞書をつくる、ECOTOURISMエコロジの旅2、

## 7．卒業論文

卒業論文は、4年間学んだ成果の総仕上げです。全力を傾注して、悔いのない研究論文にまとめてください。研究テーマは、3回生を終える前には、ほぼ決定し、4回生演習の登録時に迷わないようにしておくべきです。新年度のはじめ頃にテーマを担当教員に報告し、具体的指導が受けられるように準備しておくことを望みます。

先人の研究成果は、京都大学人文科学研究所編『東洋史研究文献類目』（1934～62）、『東洋学文献類目』（1963～）、 「日本中国学会報」 学界展望（1950～）、 『中国文学研究文献要覧』 戦後編（1945～77）などによって知ることができます。中国文学関係の専門誌の多くは、本学図書館・人文系文献資料室でも収集していますが、専門誌以外に掲載された論文等のうち、1964年以降のものは、『中国関係論説資料』に複写収録されています。資料のなかには、すぐに入手できないものもありますから、早くから準備しておくことが大切です。なお京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターでは「東洋学文献類目検索」「全国漢籍データベース」をWeb上に公開しており役に立ちます。

このほか、後述の「3 卒業論文について」や「6 中国文学を学ぶための参考書」、 「7 中国文学関連Webサイト」を参照してください。

## 2 中国文学研究入門について

### 中国文学研究入門の目的と研究発表

#### 1. 中国文学研究入門とは？

文学部では、新入生が基本的な研究法を身につけるために、専攻ごとに「研究入門」という授業が設置されています。中国文学専攻においては、これから中国文学を研究していくのに必要な基礎知識の習得を目指して、30人前後の小集団で進める「中国文学研究入門」という授業があります。

中国文学には、「詩」「散文」「小説」「詞」「戯曲」というように、多くのジャンルが含まれますが、中国文学研究入門では、「詩」を中心に学んでいきます。中国最初の歌謡である『詩経』に始まり、『三国志演義』でおなじみの曹操父子や隠逸詩人陶淵明が活躍する魏晋詩、李白や杜甫で有名な唐詩を経て、中国最後の王朝である清の詩に至るまで、中華民国以前の主要な詩人・作品を時代順に取り上げます。そして、その時代背景や詩人の作風、基本資料を学習し、現在までにどのような研究がなされたか、またどのような問題点があるかなど、より専門的なことも学んでゆきます。

#### 2. 研究発表について

それでは「研究入門」はどのような形式で行われるのでしょうか。高校までは、先生が教壇に立って一方的に生徒に話すという形式の授業がほとんどだったと思います。しかし「研究入門」では、四、五人の班に分け、班ごとに担当を決めてレジュメを作成し、授業で発表するという形式をとります。班分けから研究発表にいたるまでの過程は次のようになります。

##### 、班分け

四、五人の班に分けます。一班「詩経」、二班「楚辞」というように、班ごとに担当するテーマを決めます。なお、各班が担当するテーマについては、助手・TAの方から前もってお知らせします。

##### 、事前指導・役割分担

レジュメを作って発表するといっても、どのようなことを書いて発表すればよいのか、戸惑ってしまうことでしょう。そこで研究発表の三週間前に発表者を集めて、助手とTAが事前指導を行っています。事前指導では、担当のテーマについての概略やレジュメに盛り込んでほしい事項について解説します。それが終わると、班内で担当を決めてもらいます。担当事項は、大まかに言うと「時代背景」「作者紹介」「作品紹介」「問題点・研究史・論著目録」の四つに分かれます。**事前指導は研究入門の平常点に含まれますので、必ず出席してください。**欠席者が出ると、役割分担もできないので、班のメンバーにも迷惑をかけてしまいます。やむを得ない事情でどうしても出席できない場合には、助手かTAにその旨を伝えてください。無断で欠席した場合には、電話等で呼び出すこともあります。

##### 、レジュメ作成

事前指導・役割分担が終わると、二週間でレジュメを作成します。まずは事前指導で紹介した本を中心に、図書館・文献資料室・共同研究室等で資料を集めてください。そして集めた資料をもとに、レジュメを完成させてください（レジュメ作成に関する詳細は [レジュメ・資料の作り方](#)を参照）。レジュメを作る際には特に以下の点に気をつけてください。

**資料をそのまま写すのではなく、自分自身の文章で書くこと。**

**レジュメの内容が重複しないように、班のメンバーとは連絡を密にすること。**

**本は借りるのではなく、できるだけコピーで済ますこと。**

特に最初に挙げた点には注意してください。レジュメは収集した資料の中から、要点を見つけ出し、それを自分なりに要領よく、且つわかりやすくまとめていくべきものであって、集めた資料をただ写せばいいというわけではありません。自分なりの文章で書くように心がけてください。

研究入門で扱う文献資料を借りてしまうと、他のクラスで同じ所を担当している人、または担当が違っていてもその文献を必要とする人が、使用できなくなってしまう。特に一冊しかない本は、皆が必要なときに閲覧できるように、お互いに協力しましょう。なお学部生が文献資料室と共同研究室の本を借りることはできません。

最後に、レジュメの作成についてわからないことがあったら、助手かTAに聞いてください。

## 、原稿チェック

発表の約十日前に、助手とTAが原稿をチェックします。それまでに下書きを完成させ、あとは清書するだけという段階にまで仕上げてください。原稿チェックでは、誤字の訂正、必要事項の漏れはないかということを中心にみます。指摘された所を訂正したら、清書して原稿を完成させます。

## 、印刷

原稿が完成したら、印刷をして製本します。原稿を印刷するには、文学部事務室（清心館1F）の前に置いてある「小集団クラス印刷申請書」が必要です。「小集団クラス印刷申請書」とは、印刷室の輪転機を使用するための許可証です。「小集団クラス印刷申請書」には指導教員記入欄があるので、予め指導教員からサインをもらっておいてください。指導教員のサインがないと印刷ができません。そして「小集団クラス印刷申請書」を持って事務室に行き、所定の手続きをして、清心館1F談話室横の印刷室の鍵をもらいます。その際鍵と引き換えに、事務室に学生証を預けなければなりません。印刷が終わったら、速やかに鍵を返却してください。

## 、配布・発表

完成したレジュメは、発表一週間前の研究入門の時間に配布してください。発表者はレジュメをもう一度チェックし、どのように発表するかを考えて、発表に備えましょう。発表の時間は一人あたり質疑応答も含めて十五分程度ですから、発表のときは書いた文章をそのまま読むのではなく、ポイントを絞って発表します。一方発表者以外の人も事前にレジュメを読んでおき、疑問点や意見が言えるようにしましょう。

以上研究発表にいたるまでの過程を簡単に述べつつ、レジュメを作成する際の留意点についても触れました。「研究入門」は試験やレポートだけでなく、レジュメの内容や授業態度、事前指導の出席も併せて評価の対象になります。授業に出席するのは当然として、主体的に参加するという心構えも必要です。

## 《補足：自主ゼミの持ち方》

自主ゼミとは、学生同士で作る「勉強会」のことです。中国文学専攻で行われている自主ゼミには漢文の訓読を中心とした読書会形式と、参加者が各自レジュメを作成して発表するという研究会形式のものがあります。こういった学生の自主ゼミの活動に対して大学も援助をしており、自主ゼミの登録をすると、コピーカードと印刷用紙の援助を受けることができます。自主ゼミの登録申請は、前期と後期の二度募集しています。詳細は事務室に問い合わせてください。

## レジュメ・資料の作り方

---

### 1. レジュメとは

研究入門は担当者が調べたことや考えたことを発表し、討論するという形式で行われます。そのとき、調べたことや考えたことを書き記したものを「レジュメ」といいます。「レジュメ (resume)」とはそもそもフランス語で「摘要」「大意」を意味し、こんなことを調べ、こんな風に考えたといった「主体性」を加えなければなりません。

### 2. レジュメの内容

中国文学研究入門では、以下の20のテーマについて、順次グループ発表の形式で授業を進めていきます。

詩経 楚辞 古楽府と五言詩 魏晉詩 東晉宋・齊梁詩 近体詩と初唐詩 盛唐の山水詩と辺塞詩 李白 杜甫 韓愈とその周辺の詩人 白居易 晩唐詩 北宋前期の詩人 蘇軾 蘇門の詩人と王安石 南宋三大家 唐宋の詞 金元詩 明詩 清詩

そしてひとつのテーマに対して、主に「時代背景」「作者紹介」「作品紹介」「問題点・研究史・参考文献資料」の四つに分け、これを四、五人の班で分担してレジュメを作成します。次にそれぞれの要点をまとめておきます。

#### 、時代背景

主としてテーマとなる人物が生きた時代の情勢について書きます。中国の文人はたいていの場合、詩人であると同時に政治家でもあり、その作風が歴史上の事実に影響されることも少なくありません。作品をより深く理解するために、詩が詠まれた時代の全体像を明らかにする必要があります。

#### 、作者紹介

作者の紹介をします。テーマが李白や杜甫であれば一人の伝記を書くことになりますが、魏晉詩などがテーマの



( レジュメ見本 - 2 )

<p>② 日本文学に与えた影響 中国の詩集で白詩は日本文学に影響を与えたものはない。遠藤使に「これ、多くの詩文集が日本に伝えられた。その中でも白詩は、李白や杜甫の詩集よりも愛読された。</p>	<p>③ 日常性 友人との語りや独り言はとりどりがな。重く思想的な問題を話すことは稀で、多くは日常の些事であり、身近の雑事である。例えば、時の政治を鋭く攻撃した諷刺の詩や、戦争に駆り立てられる大衆の反戦と歌う平和の詩や、重税にあえぐ生活苦から「薄命」とか「憐人の為」に泣く悲しみの歌や、栄利を捨てて悟りをついた悠々自適の詩などがあ</p>	<p>中には一字も残さないほどに文字を改めている詩もあった。その詩稿を見た北宋と南宋の学者がそれぞれに記録している。</p>
<p>この「白氏文集」(白居易の詩集)は、平安朝時代の男性のみでなく、女流にも愛読された。清少納言や紫式部は人知れずこれを読破暗誦して、時と処に応じて、これをよく駆使して、彼女たちの中国文学に行する教養の深さを示したようだ。清少納言の「枕草子」には「昔は文業・文選」とあり、彼女の第一の愛読書が白居易の「白氏文集」であったことが分かる。また、「雪のいと高う」は、「白氏文集」に「香爐峰の會は簾を撥けて着る」というにわたっている。菅原道真は最も白詩を愛読した人で、彼が大宰府に流された時に「門を出でず」と題して</p>	<p>る。彼は正義と平和を愛する大衆詩人である。このような特徴を持つ白居易の詩風は「平明通俗」と言われた。また、親友である元稹の詩と合わせて「元白体」あるいは「元和体」、「元輕白俗」などと称されている。</p> <p>「元和体」とは、元白のみでなく、張籍、孟郊を含めた元和期の詩の新風を総称するものである。</p> <p>「元白体」とは、元稹と白居易の二人の詩の平易さを旨とする詩体と称している。「元輕白俗」とは、蘇軾の「柳子玉と祭る文」の中にでてくる語で、元稹の詩は軽浮で重みがなく、白居易の詩は</p>	<p>である。彼は正義と平和を愛する大衆詩人である。このような特徴を持つ白居易の詩風は「平明通俗」と言われた。また、親友である元稹の詩と合わせて「元白体」あるいは「元和体」、「元輕白俗」などと称されている。</p> <p>「元和体」とは、元白のみでなく、張籍、孟郊を含めた元和期の詩の新風を総称するものである。</p> <p>「元白体」とは、元稹と白居易の二人の詩の平易さを旨とする詩体と称している。「元輕白俗」とは、蘇軾の「柳子玉と祭る文」の中にでてくる語で、元稹の詩は軽浮で重みがなく、白居易の詩は</p>

レポート・小論文の書き方

1. はじめに

大学の授業では、多くのレポートが課されます。また、文学部の学生は、四年間の大学生活の集大成として、卒業論文(原稿用紙30枚以上)を書くことになっています。更に、大学を卒業し社会に飛び立てば、ビジネスマンは業務報告書を、教師は指導報告書を、とその業種により、多種多様な文書を作成することになります。ですから大学在学中に、文章作成能力を身につける事は必要不可欠なのです。

この項では、レポートを作成するときの注意点や心構えについて簡単に説明します。

2. レポートを書く為の手順

ある授業で、教員から次の課題でレポートを書くように指示が出た、としましょう。

「レポート課題; 李白の文学的特質について論じなさい」

このレポートを作成する為には、どのようなことをすべきでしょうか。最初から分からなくても結構です。でも、どのようにすべきか、以下に記しますので、よく読んでください。そして、この文章を読んだ後には、どうすべきかを答えられるようにしましょう。

A. 資料の収集

まずレポートを作成する上で必要なこと、それは資料の収集です。資料がなければ、レポートを書くことはできません。できるだけ多くの資料を集めることを心がけましょう。

李白をはじめ、中国文学関係の資料は、別項「参考書」で挙げられている書物を読んだり、文献資料室や図書館を利用することで探せますし、探し方が分からなければ、教員・助手・TAに質問しましょう。

B. 資料の検討とテーマの絞り込み

次にすべきことは、集めた資料を整理し、内容を検討することです。そのためには、書かれている内容を正確に読解することが必要です。「勝手読み」によって、自分の都合のいいように解釈するのは、最も避けるべきことです。

中国文学専攻で扱う文献は、漢文や現代中国語で書かれているものが必要になります。一回生から、漢文や現代中国語の授業がありますので、しっかりと勉強し、資料を読みこなすための力を蓄えていきましょう。勿論、現代の日本人研究者たちが書いた書物・論文にも目を通さなくてははいけません。ただ、そのときには一人だけでなく、

同じ内容について別の研究者はどのように言っているかを、比較しましょう。研究者によって、見解が異なることがあるからです。

また、レポートで扱うテーマを絞り込むのも、大切な作業です。「李白の文学的特質を論じなさい」と言われても、様々な特質があり、その特質を全部論じようとするれば、本一冊分で収まるかどうか、といったところです。一本のレポートで、とても「李白の文学的特質」の全てを説き尽くすことはできません。ですから、こちら側でテーマを絞り込む必要があります。例えば、「酒を詠んだ詩」「友を詠んだ詩」のように、詩の内容に注目してテーマを絞り込む方法もあれば、「李白の楽府詩」「李白の絶句」のように、詩型に注目してテーマを絞り込む方法もあります。また、「李白と杜甫」のように、比較することで論じる方法も考えられます。**大切なのはテーマを一つに決め、それについてしっかりと論じることです。**あれもこれも論じようとする、まとまりがなく、何を言いたいのか、よく分からないレポートになってしまいます。

今まで述べたAとBが、レポートを作成する際の作業の大部分を占めます。つまり、レポートを書くための下準備が、レポートの巧拙を決める、ということです。ですから、下準備を疎かにしないように肝に銘じてください。

### C、執筆

A・Bの作業を通じて、いよいよレポートの執筆、ということになります。しかし、いきなり何も考えずに文章を書いても、優れたレポートは完成しません。建築士が家を建てる際、設計図を作成するのと同じように、レポートを書く際にも設計図（アウトライン）を作ります。どのように展開すれば、読者にもっとも明瞭に、論理的に伝達することができるのかを考え、文章全体の構成を考えます。それが、アウトラインの作成です。

テーマを「李白が詠んだ酒の詩」に絞り込みました。すると、「李白の酒を詠んだ作品の引用」、「後世の人たちの作品評価」、「自分の評価」を記すことになりますが、それらを文章全体のどこに配置すればよいのか、を考えなくてはなりません。レポートでは、文中で用いる材料が同じでも、順序が変われば、読者に対する印象度も説得力も大きく変わってきます。よくよく考えた上で、文章の構成を練りましょう。

文章全体の構成が決まったら、いよいよ執筆です。執筆する際に強調しておきたいのは、「**借り物ではなく、自分の言葉で文章を書いてもらいたい**」ということです。学生のレポートを読むと、様々な事柄を一生懸命調べるのはいいけれども、書物や論文を書いた学者の文章をそのまま引用しておきながら、その旨を明記せずに知らないふりをしている場合が実に多いのです。学者の意見を紹介するときは、要点を要領よくまとめることが大切です。やむを得ず、文章をそのまま引用する場合は、どこからどこまでが引用部分に該当するか、はっきりと分かるように記すべきです。**要約紹介・引用いずれにしても、誰のなんという論著であるか、出版事項も含め明記する必要があります。**

最初のうちは、下手でもかまいません。「どう書けば良いのか」と悩みながらも、自分の言葉で文章を書く、という訓練を積みましょう。

### D、推敲

レポートも書き上げ後は提出するばかり、と言うとそうではありません。提出するのに先立ち、**必ず推敲をする**という習慣を身につけましょう。推敲するときに留意すべきところは下に挙げる通りです。

#### \*誤字・脱字の確認

文学部に属しているわけですから、くれぐれも誤字・脱字のないように気をつけましょう。

#### \*主述のねじれ・言葉の係り受け

もう一度、自分が書いた文章を読んでみましょう。主語と述語が一致しない場合や、同じ内容を繰り返してみたり（同語反復）言葉の係り受けがおかしかったり、という場合があります。

また、推敲の時期や方法について、心がけておく良いことを次に記します。

#### \*推敲は、文章を書き上げた直後に行うだけでなく、時間をおいて、例えば一晩明けてから後に行う

自分の書いた文章を客観的に評価するのは意外と難しく、ましてや書き上げた直後に客観的に評価するのは非常に難しいことです。推敲も同じことが言えます。

#### \*パソコンやワープロを使って文章を作成した場合、画面を見ながらではなく、印刷した原稿を見ながら推敲した方がよい

画面を見るだけでは、なかなか誤字を発見できません。自分の原稿が印刷されると、どのようになるかをチェックする為にも、一度印刷して推敲しましょう。

### 3. おわりに

以上、レポートの書き方について、簡単に説明しました。より詳細にレポートや論文の書き方を知りたい人は、『論文の書き方』（澤田昭夫著、講談社学術文庫、1997）を手始めに、様々な論文の手引書を読んでみてはいかがでしょうか。

## 3 卒業論文について

### 卒業論文の準備と作成

卒業論文は、4年間にわたる学習・研究の総決算であるだけに、全力を傾注して、その作成に取り組まなければなりません。そのためには、遅くとも3回生を終える前には研究テーマをほぼ決めておき、4回生演習の受講登録の時に迷わなくてもすむようにしておく必要があります。

卒業論文題目の事務室への提出期限は10月上旬（詳細は後述「卒業論文の提出について」の頁を参照）ですが、4月当初の授業時に担当教員にそのテーマを報告し、具体的な指導を受けられるようにしておくことが望ましいでしょう。

テーマが決まったら、まずそのテーマにかかわる先人の研究論文を概観し、必要な資料を収集します。次に作家の『文集』や主要作品、伝記資料などの基礎的文献の読解に努め、夏休みを終えるまでには、論点を整理し、論文の構想を練っておきます。

10月には、論文の章ごとの要旨をつくり、論旨の展開に必要な資料を整理します。

11月には、執筆を始め、下書きを完成させ、12月には清書にとりかかります。

提出締切り日時は12月20日午後5時（20日が土・日・祝の場合、前事務室開室日になります）です。完成原稿は2部コピーを作り、原本とコピー1部の計2部を提出し、残りの1部は手元に保存し1月下旬から2月中旬に行われる口頭試問に備えてください。卒業論文の提出については、いかなる理由があろうとも遅延は一切認められません。早めの提出を心掛けましょう。

### 中国文学専攻卒業論文の体裁

#### 【原稿用紙に手書きする場合】

用紙：B4判「立命館大学論文用紙」（二つ折り）

縦書・横書の指定：原則として縦書

枚数：原則として本文が30枚以上50枚以下

その他の注意：黒または青のペンを使用すること

#### 【ワープロ・パソコンを使う場合】

用紙：A4判白紙

縦書・横書の指定：原則として縦書

文字数：1行あたりの文字数および1頁あたりの行数は指定なし

枚数：本文が400字詰原稿用紙に換算して30枚以上50枚以下であることがわかるように明記する。

#### 【表紙等に関する体裁】

用紙：硬版（黒色）表と裏に硬版を使い綴じ紐で綴じること。

大きさ：B5判（手書き原稿の場合） A4判（ワープロ・パソコン原稿の場合）

綴じ辺：B4判原稿用紙の場合は長辺綴じ（右辺袋綴じ）

A4判用紙の場合は短辺綴じ（右辺綴じ）

題目シール：所定のを貼り付けること

## 論文執筆に当たっての諸注意

1. 本文は原則として縦書きとする。ただし、横文字を多く使う語学関係の論文など、その内容によっては横書きでも良いが、その場合は担当教員と相談すること。
2. 表紙は必ず専攻所定の黒硬版B5判のものを、原稿用紙は必ず本学指定のもの（立命館論文用紙）を用いること。ワープロ・パソコンを使用する場合も、用紙の大きさを本学指定のものに合わせ、表紙は専攻所定の黒硬版A4判のものを、用いること。
3. 本文の枚数は400字詰原稿用紙で30枚以上、50枚以内を厳守すること。目次や注は枚数に算入しない。ワープロ・パソコン使用の場合は、1枚の字数を400字にする必要はないが、全体の分量が400字詰原稿用紙で30～50枚になっていることが分かるようにする。
4. 必ず目次を付け、章・節の題名とそのページ数を記入すること。
5. 本文には必ずページ数を記入すること（原稿用紙を半分に折った場合は両側に付ける）。
6. 本文は常体（「である」「であった」）を用い、敬体（「です」「ます」）を避けること。ただし、引用文に関してはこのかぎりではない。
7. 旧漢字と常用漢字、現代仮名遣いと歴史仮名遣いを混用しないこと。ただし、引用文や資料に関してはこの限りではない。
8. 短い引用文は「」をつけて、本文中に入れる。長い場合は、行を改め、2字下げで書く。
9. 漢文資料を引用する場合は、必ず句読・訓点（返り点・送り仮名）を付けるか、または書き下し文にする。後者の場合は、原文を注記すること。中国語の場合は、口語訳を付ける。原文は注にまわしてもよい。
10. 資料の引用に当たっては“孫引き”（原典に直接あたらず、他の文献に引かれているものから借用すること）をしてはならない。どうしても原典を見ることが出来ない場合は、その旨を明記すること。
11. 地図や年表・図表などは、必要に応じて付けること。
12. 注の短いものは、本文下欄に脚注として書き込む。長い場合は、本文の該当箇所に番号をつけ、本論の最後にまとめる。番号は、章ごとに区切らず、通し番号にすること。
13. 論文作成に当たって利用した文献は、最後にまとめて列挙する。単行本は、著者・書名・発行所・発行年を、また雑誌掲載の論文などは、著者・題目・雑誌名・巻号・発行年月を記入すること。

### 「卒業論文」の提出について

「2005年度卒業論文」の提出締切期限は、  
**12月20日(火)午後5時**とします。＜時間厳守＞

提出の際は、学生証が必要です。

必ず本人が持参してください。事前許可なしで代理提出はできません。

締切時間は厳守してください。遅延提出は一切認められません。

卒業論文の提出の形式が整っていないと受理できないケースもありますので、万端に準備してください。

**単なる体調不良や交通機関の延着・機器等の故障・勤務の都合等の理由での提出遅延は、認められません。**余裕を持って提出できるように心がけてください。

予測不可能かつ緊急の事態などで、どうしても締め切り前の提出が困難になった場合、**自分で判断せず、必ず事前に文学部事務室に一報**してください。事前連絡・相談があったケースに関してのみ、本人申請書・証明書類を提出の上、教授会の審議を受けた上で提出の延期を許可する場合があります。（全てが許可されるとは限りません。）事前連絡と必要な書類手続の両方が満たされていることが大前提です。事前の連絡がない場合は、事後の対応が不可能になります。

「卒業論文」の提出前に、「卒業論文題目届」を文学部事務室に提出することが必要です。「卒業論文題目届」の提出締め切り期限は、

10月6日(木)午後5時とします。

論文審査の主査・副査の発表は、10月下旬から11月上旬とします。各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

口頭試問の日程は、1月下旬から2月中旬に行います。個人別の日時は、1月中旬頃に各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

卒業旅行の日程は、口頭試問を避けてください。

卒業論文の形式は、各専攻・プログラムにより異なりますが、以下の形式は共通ですので、必ず守ってください。

卒業論文は、添付資料なども含め、必ず2部提出してください。

表紙に論題、氏名、学生証番号などを記載してください。

2005年度卒業論文 「 . . . . . (論題)」 学生証番号、氏名
---

論題は、事務室に提出した「卒業論文題目届」と全く同一でなければなりません。卒業論文作成中に論題の変更が必要となれば、主査・副査の変更がないか必ず指導教員に確認した上で、事務室で論題変更の手続きを行ってください。テーマ自体が変わるなど、大きな変更は認められません。

主査・副査の名前を記した紙(シールになっています)を、おもて表紙の裏側に貼り付けてください(2部とも)。「主査・副査シール」は文学部事務室で配付しています。主査・副査は10月下旬から11月上旬に共同研究室の掲示板に掲示されていますので、早めに確認してください。

体裁については各専攻の「教学の手引き」に従って作成してください。(専攻によっては体裁の変更指示もあるため、各専攻掲示を確認してください。)

体裁については、各専攻で点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた論文でも、専攻で体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

#### 2005年度後期 卒業論文に関する日程

日 程	内 容
10月6日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表(共同研究室掲示板)
11月28日(月)～12月5日(月)	題目変更期間
12月13日(火)	卒業論文受付開始
12月20日(火)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
1月中旬頃	口頭試問日程発表(共同研究室掲示板)
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

#### 5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は7月下旬に各専攻・プログラムの共同研究室掲示板に掲示します。

## テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文（非卒業論文形式含む）を提出するには

テーマリサーチ型ゼミナール受講学生の皆さんは、従来のような卒業論文提出の形態（卒論形式）もあり得ますが、クラスによっては、そこで制作する卒業論文は従来の専攻のような論文形態によらず、共同で成果物（本の出版等）を仕上げこれを卒業論文とすることができるという形態（非卒論形式）も認められています。提出期日・提出先・提出方法については、卒論形式か非卒論形式かによって取り扱いが異なります。必ずクラス内で担当教員に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。卒論形式・非卒論形式いずれの場合も「卒業論文・卒業制作テーマ届」（卒論形式・非卒論形式共通）は全員提出してください。

「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り：10月6日（木）午後5時まで

テーマ届変更期間：11月28日（月）～12月5日（月）

### 体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数・書式・用紙の大きさなどはクラス担当者の指示に従うこと
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、氏名を必ず記載すること
非卒論形式で制作の場合	その他注意	1. 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類は該当しない。 2. 主査・副査の発表・口頭試問日程等は担当者の指示に従ってください 3. 提出締め切り等の詳細は「テーマリサーチ型ゼミナール・卒論形式で提出する方」を参照してください。
	文書・表紙体裁	体裁については全てクラス担当者の指示に従うこと
非卒論形式で制作の場合	その他注意	1. 制作物（成果物）の提出が不要の場合であっても卒業論文・卒業制作テーマ届を所定の期日までに文学部事務室へ提出してください。 2. 制作物（成果物）の提出が必要な場合、提出期日・提出先・提出方法などは担当教員の指示に従ってください。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮）」を実施することがあります。実施日については、担当教員の指示に従ってください。

## テーマリサーチ型ゼミナール「卒論形式」で提出をされる方の提出について

提出に際する諸注意は基本的に前述の「卒業論文」の提出についてに従ってください。ただし、以下点が異なりますので留意してください。

TRSのばあい、「卒業論文題目届」ではなく、「卒業論文・卒業制作テーマ届」の提出が必要です。

論文審査の主査・副査の発表日程は授業内にて指示します。

口頭試問の日程は基本的に1月下旬～2月中旬に行う予定ですが、個人別の日時等は授業内にてお知らせしますので、クラス担当教員の指示に従ってください。文学部共同研究室掲示板に掲示することもあります。

日 程	内 容
10月6日(木)午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表(担当教員による指示)
11月28日(月)～12月5日(月)	題目変更期間
12月13日(火)	卒業論文受付開始
12月20日(火)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
1月中旬頃	口頭試問日程発表(担当教員による指示)
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木)午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は各担当教員に確認してください。

## 4 共同研究室と人文系文献資料室（文献資料室）の利用について

### 中国文学専攻共同研究室の利用

中国文学専攻共同研究室には多くの文献や貴重図書があり、助手が管理していますが、現在は研究や発表の準備をする場所として提供され、中国文学専攻の学生なら誰でも利用できることになっています。また、様々な回生の人や院生と交流できる場所でもあります。しかし、あくまで研究室であり、談話室とは異なりますので、その点に留意してマナーを守って使用しましょう。

#### 1. 場所

清心館3階の南側にあります。ドアは東側のものを使用してください。西側のドアは使用できません。

#### 2. 使用時間と鍵

使用できる時間は、原則として9:00～21:30です（21:30以降は、深夜延長届が必要です）。鍵は20:00までは清心館1階の事務室で管理しています。使用する場合は、事務室の窓口に申請し、鍵と自分の学生証を交換して借ります。借りた鍵は、共同研究室のドアの横にある鍵掛けにかけておきます。**研究室内には貴重図書もありますので、研究室が無人になる時は必ず施錠してください。**返却する場合も同様に、事務室の窓口に申請し、鍵と学生証を交換してください。事務室が昼休みなどで閉まっている時間帯は、開くまで待ち、絶対に鍵を持ち帰ることのないようにしましょう。

原則として、鍵を借りた人が共同研究室を出る時は、他の人と学生証を交換してその旨を事務室の窓口に申請し、学生証を交換・返却してもらうことになっています。しかし、もし研究室を閉めて鍵を返却する時に借りた本人が既に帰ってしまった場合には、そのまま窓口に鍵を返却してください。夜遅くなって事務室の開室時間を過ぎてしまった場合には、中川会館の東側にある管理課に鍵を持っていきます。本人が借りた鍵であれば、すぐに学生証を返却してもらえますが、他人が借りた鍵である場合は、学生証は事務室で預ることになります。その場合は、翌日以降事務室で返却されますので、学生証の持ち主は必ず受け取りに行ってください。

#### 3. 書籍について

共同研究室には多くの本があります。中には高木正一先生や歴代の諸先生・先輩が寄贈されたものがあり、中国文学専攻にとってだけでなく大学の貴重な財産ですので、大切に扱きましょう。

線装本（糸で綴じた古い本で、これも高木先生の寄贈本です）は特別な場合を除き、使用できません。**その他の本や辞書は、研究室内では自由に使うことができますが、すべて貸出禁止です。**もし必要な場合は、助手・TAに声をかけてから、1階にあるコピー機などでコピーしてください。

#### 4. パソコンについて

##### A、注意事項

共同研究室内には東側に1台、西側（奥）に2台パソコンが設置されています。インターネットに繋がれるのは奥の左側のパソコンで、四部叢刊・RUNNERS・電子文献などの検索専用に使っています。ログインするにはパスワードが必要ですので、普段は使用できません。**このパソコンが使用可能な時間は助手・TAの勤務時間内のみで、申請が必要です。**検索以外の目的（レジュメ作成など）で使用したい場合には、研究室東側のパソコンを使用してください。

パソコン内には個人的なファイルをハードディスクに残さないでください（残っている場合には、了承無しに削除することがあります）。なお、プリンタは現在使用できません。

##### B、電源の切り方

東側のパソコン：「電源を切る用意ができました」と表示されたら本体とモニタの電源を切ります。

西側左側のパソコン：使用後は「シャットダウンする」を選択して、「電源を切っても安全です」というダイアログが表示されたら、本体とモニタの電源を切ります。

西側右側のパソコン：「電源を切る用意ができました」と表示されたら、しばらくして自動的に本体の電源が切

れます。その後でモニタの電源を切ってください。

西側のパソコンは、最後にプリンタの後ろにある元電源（オレンジ色のスイッチ）を切ってください。

### C、使用できるソフト

#### 【Netscape】

インターネットを見るためのソフトです。起動すると、立命館大学の「図書館・情報センター」のページが表示されるようになっているので、そこから各種検索画面などを開いてください。また、「ブックマーク」のところに「立命中文公式頁」（中国文学専攻のホームページ）が登録されています。その中に学術リンク集、語学関係のサイトのリンク集があります。

《注意！》図書館などにある学校内の他のパソコンと違って、パスワードなど個人情報を入力すると外部から参照される恐れがあり、また履歴にすべて残ってしまいます。悪用防止のため、Webメールなどは使わないでください。

#### 【電子版四部叢刊】

「四部叢刊」に収められている書について、全文検索、書名検索などが出来るソフトです。

使用法は助手・TAに訊いて下さい。

## 5. その他注意事項

- ・研究室内は禁煙です。また、飲食も控えることになっています。
  - ・研究室内での携帯電話の使用は禁止しています。使用する場合には廊下へ出てください。
  - ・あくまで研究室であり、また近隣の教室では授業が行われています。室内および廊下での大声の談笑、騒音は慎んでください。
  - ・研究室奥には中国藝文研究会の事務局が置かれ、その関係の出版物・備品が保管されています。また、高木先生寄贈書の配架場所となっています。照明・空調のスイッチを使う時と事前指導などを除いて、普段は入らないようにしてください。
  - ・盗難防止のため、荷物を置いたまま研究室を離れることのないようにしましょう。
- その他、後片付けなど、マナーを守って皆が気持ちよく使えるよう心がけましょう。

## 人文系文献資料室（文献資料室）について

---

人文系文献資料室（文献資料室）は修学館地下1階にあり、清心館の向かい側（西側）に入口があります。利用可能時間は、月曜日～金曜日は9:00～20:00、土曜日は10:00～17:00で、日祝および毎月15日は書庫整理のため閉室しています。なお土曜日は通常の入口ではなく中央北側の入口でカードリーダーに学生証を通して入ります。正確な日程や休暇期間の開室時間については文献資料室で配布されている予定表を参照してください。

### 1. ロッカーと入室の手続き

文献資料室には、原則として辞書以外の本やカバンを持ち込むことは出来ません（必要がある場合は、受付に申請すること）。必要最低限の筆記用具、貴重品を持って、他の荷物は修学館入口のロッカーに入れて鍵をかけます。なお、このロッカーは文献資料室の利用者以外が利用することはできません。他の人の迷惑にならないよう、用事が済んだら荷物を出してください。

階段を下りて正面が受付です。入ったら用紙に回生・専攻などの必要事項を記入します。受付には予定表や資料室内の書架の位置などの資料が置いてありますので、必要なものを貰うことができます。

### 2. 本を探す

ランナーズ（図書館の図書検索システム）で本の番号を調べます。分類番号のあとの「所在」に「文・文献」とあるものは文献資料室にあります。番号がわかったら、書架で該当番号を探します。中国文学関係の本はA書庫の奥（向かって右側）にあります。

ここがない場合、閉架（C書庫）にある可能性があります。その場合は指定用紙に書籍番号などを記入し受付で依頼すれば、持ってきて貰えます。必要な箇所を閲覧あるいはコピーしたら、受付に返却します。

大抵の本はランナーズに登録されていますが、登録されていなくても『立命館大学漢籍分類目録』に記載されている場合があります。その場合、あるいはランナーズで検索した時に「和装」と記されている場合、『立命館大学漢

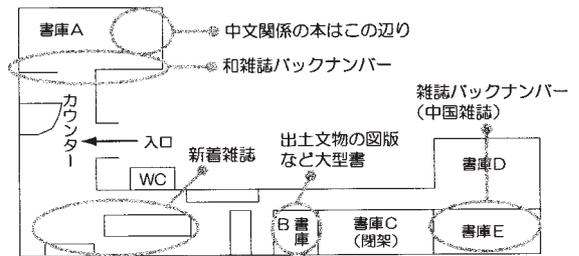
『書籍分類目録』で漢籍番号を調べなおして指定用紙に記入し、受付に渡してください。

### 3. 雑誌の探し方

中国学関係の論文は『中国学研究文献要覧』や『東洋学文献類目』などを使って探します。雑誌名と掲載年・号が分かったら、ランナーズで所在を確認の上、E書庫へ行き、書架の横の雑誌名一覧を参照して該当雑誌を探します。立命館大学にその雑誌がない場合は、他の大学などで探すことになります。

### 4. 注意事項

- ・文献資料室では学生が本を借りることはできません。必要な箇所は資料室内でコピーしてください。なお、資料室での私物のコピーは禁止されています。
- ・資料室内での喫煙・飲食は禁止されています。
- ・携帯電話・PHSの電源は切ってください。
- ・資料室の棚は可動式になっています。一箇所を開けていると、他の棚が閉まり使用できません。他の人の迷惑にならないよう、一つの棚を長時間開けていることのないようにしましょう。



## 図書館について

ここでは、図書館の中国文学専攻でよく使う書籍の場所などを説明します。本の検索の仕方など詳しくは「LIBRARY GUIDE」を参照してください。

中国文学専攻の本は、大部分は3階の「文学」の棚にあります。それ以外に、以下の場所にも関連図書が多くあります。

#### [ 1階 ]

**レファレンスカウンター**：入り口から正面つきあたりにあります。書庫にある本の貸出申請、資料の所蔵調査などを依頼できます。また、他大学が所蔵している場合、閲覧のための紹介状を発行してもらうことも可能です。資料や複写の取り寄せも依頼できます。

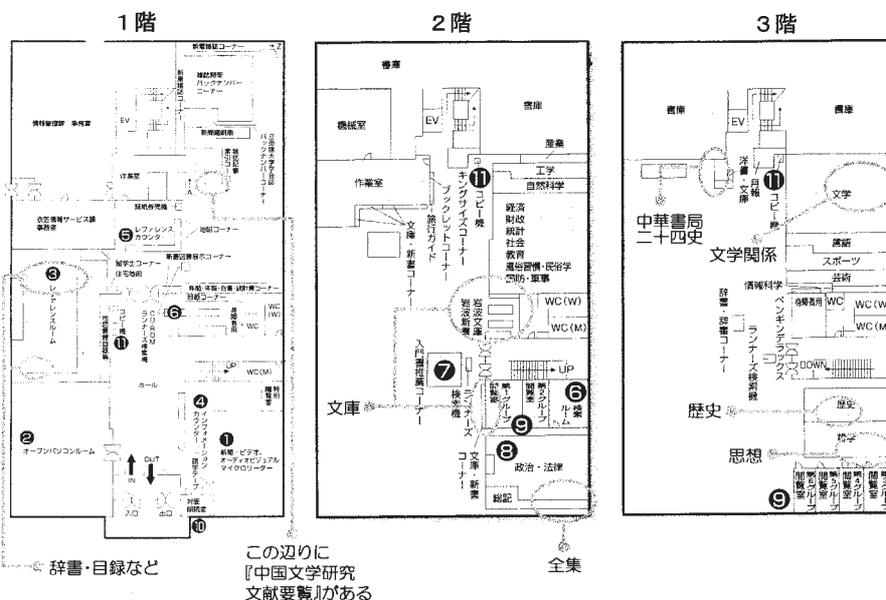
**辞典類**：レファレンスカウンターから左手（南側）にあります。辞書類はだいたい貸出禁止となっています。必要箇所のみコピーしてください。

#### [ 2階 ]

明治書院『新釈漢文大系』など全集や文庫本はこの階にあります。

#### [ 3階 ]

全集の一部（集英社『全釈漢文大系』など）、文学・哲学・歴史の本はこの階にあります。



## 5 その他

### 専攻ホームページについて

中国文学専攻では、ホームページを開設しています。講義概要、教員・院生紹介などのページのほか、語学や留学に関するページ、中国文学に関する学術・検索サイトへのリンク集などがあります。また、本学の名誉教授である白川静先生の著作集などを紹介するページ、学生・教員・院生および卒業生で構成する中国藝文研究会の活動を報告するページもあります。随時更新されているので参照してください。

アドレス <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index-j.htm>

### TA・助手について

TA (Teaching Assistant) と助手は、共同研究室の管理、研究入門の事前指導や原稿チェックなどをします。

助手は大学院の博士後期課程(ドクター)に属する大学院生で、学生の学術面のサポートのほか、専攻に関する仕事などを行っています。TAは博士前期課程(マスター)以上に属する大学院生で、主に研究入門について学生の学術面のサポートをします。

助手やTAの在室時間帯については、共同研究室前の掲示板に貼り出す勤務表を参照してください。その時間に共同研究室に来られない場合にはその旨を別に掲示します。

学術面で分からないこと(資料の検索の仕方、本の使い方など)があったら、気軽に声をかけてください。

## 6 中国文学を学ぶための参考書(主として日本語で書かれた図書)

### 【概説・総記】

- 支那文学概説(青木正児全集1) 青木正児 春秋社 1969
- 支那文学思想史(青木正児全集1) 青木正児 春秋社 1969
- 中国の古代文学(一)(二) 白川静 中公文庫 1976(白川静著作集)
- 文学概論(中国文化叢書4) 高木正一ほか 大修館書店 1967
- 文学史(中国文化叢書5) 高木正一ほか 大修館書店 1968
- 中国文学概論 中国藝文研究会 2000
- 中国文学概論 塩谷温 講談社学術文庫 1983
- 中国文学史 前野直彬 東京大学出版会 1975
- 中国文学史 吉川幸次郎・黒川洋一 岩波書店 1974
- 中国文学を学ぶ人のために 興膳宏 世界思想社 1991
- 中国名詩選(岩波文庫) 松枝茂夫 岩波書店 1984
- 支那文学史-上古より六朝まで 狩野直喜 みすず書房 1970
- 中国文学史資料選 前野直彬・今西凱夫編 東京大学出版会 1989
- 中国文学史 内田泉之助 明治書院 1956
- 中国文学講話 倉石武四郎 岩波新書 1968
- 中国文学入門 吉川幸次郎 講談社学術文庫 1976
- 支那詩論史 鈴木虎雄 弘文堂 1927
- 中国詩史(上)(下) 吉川幸次郎 筑摩叢書 1967
- 中国の散文(中国詩文選) 吉川幸次郎・小川環樹 筑摩書房 1984
- 中国哲学史 狩野直喜 岩波書店 1953
- 中国思想史 小島祐馬 創文社 1968
- 中国思想史(上)(下) 日原利国編 ペリかん社 1987
- 中国哲学を学ぶ人のために 本田濟編 世界思想社 1975

中国思想を学ぶ人のために 森三樹三郎編 世界思想社 1985  
 中国の哲学・宗教・芸術 福永光司 人文書院 1988  
 中国哲学史研究 - 唯心主義と唯物主義の抗争史 重沢俊郎 法律文化社 1964  
 支那学文叢 狩野直喜 みすず書房 1973  
 読書纂余 狩野直喜 みすず書房 1980  
 支那文学研究 鈴木虎雄 弘文堂書房 1925  
 中国文学思想管見 橋本循 朋友書店 1982  
 中国文学論集 吉川幸次郎編 新潮社 1966  
 風と雲 - 中国文学論集 小川環樹 朝日新聞社 1972  
 中国文学論集(高橋和巳作品集9) 河出書房新社 1972  
 中国文学論考(目加田誠著作集) 瀧溪書舎 1985  
 中国詩文論叢 清水茂 創文社 1989  
 語りの文学 清水茂 筑摩書房 1988  
 秋風鬼雨 - 詩に呪われた詩人たち 荒井健 筑摩書房 1982  
 中国的レトリックの伝統 井波律子 影書房 1987 (講談社学術文庫 1996)  
 中国文人論 村上哲見 汲古書院 1994  
 中華文人の生活 荒井健編 平凡社 1994  
 中国文学における孤独感 斯波六郎 岩波書店 1958 (岩波文庫 1990)  
 春草考 - 中国古典詩文論叢 前野直彬 秋山書店 1994  
 中国文学に現れた自然と自然観 小尾郊一 1962  
 中国の文学論 伊藤虎丸・横山伊勢雄編 汲古書院 1987  
 中国文学の女性像 石川忠久編 汲古書院 1982  
 中国の神話と物語り 小南一郎 岩波書店 1984  
 西王母と七夕伝承 小南一郎 平凡社 1991  
 芸術論集(中国文明選) 福永光司 朝日新聞社 1971  
 文学論集(中国文明選) 荒井健・興膳宏 朝日新聞社 1972  
 近世散文集(中国文明選) 本田濟・都留春雄 朝日新聞社 1971  
 近世散文選(鑑賞中国の古典) 本田濟 角川書店 1988  
 中国詩歌原論 - 比較詩学の主題に即して 松浦友久 大修館書店 1986  
 中国離別詩の成立 松原朗 研文出版 2003  
 中国の文学理論 興膳宏 筑摩書房 1988  
 異域の眼 - 中国文化散策 興膳宏 筑摩書房 1995  
 中国中世文学評論史 林田慎之助 創文社 1979  
 中国の自伝文学(中国学芸叢書) 川合康三 創文社 1996  
 中国古代説話の思想史的考察 小野沢精一 汲古書院 1982  
 中国人の美意識 - 詩・ことば・演劇 岩城秀夫 創文社 1992  
 中国の社会思想 小島祐馬 筑摩書房 1967  
 古代中国研究 小島祐馬 筑摩書房 1968  
 中国思想論集 西順蔵 筑摩書房 1969  
 東洋思想研究 本田濟 創文社 1987  
 経書の成立 平岡武夫 全国書房 1946  
 経書の伝統 平岡武夫 岩波書店 1951  
 古代中国人の美意識 笠原仲二 笠原博士頌寿記念会 1978  
 中国人の自然観と美意識 笠原仲二 創文社 1982  
 古代中国人の意識と観念 笠原仲二 笠原博士頌寿記念会 1985  
 中国近代思想研究 安田二郎 筑摩書房 1976  
 中国における近代思惟の挫折 島田虔次 筑摩書房 1970  
 道教(東洋文庫) アンリ・マスペロ著/川勝義雄訳 平凡社 1978

道教思想史研究 福永光司 岩波書店 1987  
気の中国文化 三浦国雄 創元社 1994  
中国古代書籍史 - 竹帛に書す 銭存訓著 / 宇津木章ほか訳 法政大学出版局 1980  
中国目録学 清水茂著 筑摩書房 1991  
漢詩 美の在りか 松浦友久 岩波新書 2001

## 【語法・語学】

中国語歴史文法 太田辰夫 江南書院 1958  
中国語学研究 小川環樹 創文社 1977  
中国音韻史の研究 尾崎雄二郎 創文社 1980  
中国中世語法史研究 志村良治 三冬社 1984  
中国語史通考 太田辰夫 白帝社 1988  
中国語史研究 - 中国語学とインド学との接点 水谷真成 三省堂 1994  
中国古典を読むために - 中国語学史講義 頼惟勤 大修館書店 1996  
漢文研究法 狩野直喜 みすず書房 1979  
漢文入門 小川環樹・西田太一郎 岩波全書 1957  
漢文の語法 西田太一郎 角川書店 1980  
新版漢文解釈辞典 多久弘一・瀬戸口武夫 国書刊行会 1998

## 【事典】

中国学芸大事典 近藤春雄 大修館書店 1978  
アジア歴史事典 平凡社 1962  
漢詩の事典 松浦友久ほか 大修館書店 1999

## 【辞書・辞典】

大漢和辞典 諸橋轍次 大修館書店 修訂版 1984-86  
字通 白川静 平凡社 1996  
新字源 小川環樹ほか 角川書店 改訂版 1994  
漢語大詞典 漢語大詞典編輯委員会 上海辞書出版社 1986  
王力古漢語字典 王力主編 中華書局 2000

## 【訳注書（シリーズ名）】

漢文大系 増補版・普及版 富山房  
漢詩大系 青木正児ほか 集英社（漢詩選は改訂版）  
中国詩人選集（二集・新修） 吉川幸次郎・小川環樹 岩波書店  
全訳漢文大系 宇野精一・平岡武夫 集英社  
新釈漢文大系 明治書院  
中国の古典 学習研究社  
中国の名詩鑑賞 内田泉之助監修 明治書院  
中国詩文選 筑摩書房  
中国名詩鑑賞（小沢クラシックス「世界の詩」） 小沢書店  
中国古典選 朝日新聞社  
鑑賞中国の古典 小川環樹・本田済 角川書店  
中国古典文学大系 平凡社  
漢籍国字解全書 早稲田大学出版部  
国訳漢文大成（正・続） 国民文庫刊行会

## 【著作集】

吉川幸次郎全集 吉川幸次郎 筑摩書房 1986  
青木正児全集 青木正児 春秋社 1984  
目加田誠著作集 瀧溪書舎 1985  
白川静著作集 白川静 平凡社 1999-2000  
松浦友久著作選 松浦友久 2003~  
武内義雄全集 武内義雄 角川書店 1977-79  
金谷治中国思想論集 金谷治 平河出版社 1997

## 【論著目録】

中国文学研究文献要覧（戦後編1945-1977） 石川梅次郎ほか 日外アソシエーツ 1979  
東洋学文献類目 京都大学人文科学研究所 逐年刊行  
文学・哲学・史学文献目録（東洋文学・語学篇） 日本学術会議 1954,58  
日本中国学会報（学界展望） 逐年刊行

## 【漢籍目録】

立命館大学漢籍分類目録 立命館大学文学部編 1987  
立命館大学所蔵高木正一旧蔵漢籍古書分類目録 中国芸文研究会 2000  
詞学文庫分類目録 芳村弘道ほか編 1996  
改訂内閣文庫漢籍分類目録 内閣文庫 1971  
京都大学人文科学研究所漢籍目録 京都大学人文科学研究所  
和刻本漢籍分類目録 長沢規矩也編 汲古書院 1976  
中国叢書綜録 上海図書館編 中華書局 1959-62

## 【先秦】

中国古代神話 森三樹三郎 清水弘文堂書房 1969  
中国の神話 白川静 中央公論社 1975 白川静著作集  
中国の祭祀と文学 中鉢雅量 創文社 1989  
中国古代の文化 白川静 講談社 1979 白川静著作集  
中国古代の民俗 白川静 講談社 1980 白川静著作集  
『山海経』の基礎的研究（笠間叢書） 松田稔 笠間書院 1995  
増補巫系文学論 藤野岩友 大学書房 1969  
戦国時代出土文物の研究 林巳奈夫編 京都大学人文科学研究所 1985  
春秋戦國秦漢時代出土文字資料の研究 江村治樹 汲古書院 2000

## 思想

易（新訂中国古典選） 本田濟 朝日新聞社 1966  
易経（鑑賞中国の古典） 三浦国雄 角川書店 1988  
易経（上）（下） 高田真治・後藤基巳訳 岩波文庫 1969  
書経・春秋（中国詩文選） 清水茂 筑摩書房 1975  
春秋左氏伝（鑑賞中国の古典） 安本博 角川書店 1989  
春秋左氏伝（上）（中）（下） 小倉芳彦訳 岩波文庫 1988  
諸子百家の文芸観 張小康著／釜谷武志訳 汲古書院 1985  
諸子百家（中国詩文選） 今鷹真 筑摩書房 1975  
管子の研究 金谷治 岩波書店 1987  
孔子伝 白川静 中央公論社 1991 白川静著作集  
論語（上）（下）（新訂中国古典選） 吉川幸次郎 朝日新聞社 1965  
論語 金谷治 岩波文庫 1963  
論語（鑑賞中国の古典） 加地伸行ほか 角川書店 1987

論語・孟子研究 狩野直喜 みすず書房 1977  
孟子(新訂中国古典選) 金谷治 朝日新聞社 1966  
孟子・墨子(鑑賞中国の古典) 島森哲男・浅野裕一 角川書店 1989  
墨子 浅野裕一 講談社学術文庫 1998  
新訂 孫子 金谷治 岩波文庫 2000  
荀子・韓非子(鑑賞中国の古典) 片倉望・西川靖二 角川書店 1988  
荀子 内山俊彦 講談社学術文庫 1999  
老子(新訂中国古典選) 福永光司 朝日新聞社 1968  
老子・莊子(鑑賞中国の古典) 野村茂夫 角川書店 1988  
老子・莊子 森三樹三郎 講談社学術文庫 1994  
莊子 内・外・雜篇(新訂中国古典選) 福永光司 朝日新聞社 1966-67

## 詩 經

詩經国風(東洋文庫) 白川静 平凡社 1990  
詩經雅頌(東洋文庫) 白川静 平凡社 1998  
詩經 - 中国の古代歌謡 白川静 中公新書 1970(白川静著作集9 2000)  
詩經研究通論篇 白川静 朋友書店 1981(白川静著作集10 2000)  
詩經国風 橋本循 筑摩書房 1969  
詩經国風(中国詩人選集1-2) 吉川幸次郎 岩波書店 1958  
詩經 目加田誠 講談社学術文庫 1991  
新釈詩經 目加田誠 岩波新書 1954  
毛詩・尚書(漢文大系第12巻) 星野恒 富山房 1975  
詩經(漢詩大系1-2) 高田真治 集英社 1966(漢詩選1-2 1996)  
詩經(新釈漢文大系110-112) 石川忠久 明治書院 1997  
詩經(中国の古典18-19) 加納喜光 学習研究社 1982  
詩經(中国の名詩鑑賞1) 乾一夫 明治書院 1975  
詩經(中国詩文選2) 中島みどり 筑摩書房 1983  
詩經・楚辞(鑑賞中国の古典11) 牧角悦子・福島吉彦 角川書店 1989  
中国古典詩集 - 詩經国風・楚辞(世界文学大系1・2) 橋本循・青木正児 筑摩書房 1967

## 楚 辞

楚辞叢説 白川静 「立命館大学」120-121号 1955(白川静著作集8 平凡社 2000)  
屈原の立場 白川静 「立命館大学」109-110号 1954(白川静著作集8 平凡社 2000)  
楚辞(国訳漢文大成1) 国民文庫刊行会 1921  
楚辞 星川清孝 明德出版社 1970  
楚辞(新釈漢文大系34) 星川清孝 明治書院 1970  
楚辞の研究 星川清孝 養徳社 1961  
楚辞(漢詩大系3) 藤野岩友 集英社 1967(漢詩選3 1996)  
楚辞(中国詩文選6) 小南一郎 筑摩書房 1973  
楚辞(中国古典文学全集) 目加田誠 平凡社 1962  
楚辞(東洋思想叢書9) 橋川時雄 日本評論社 1943  
楚辞研究 竹治貞夫 風間書房 1978  
憂国の詩人屈原(中国の詩人1) 竹治貞夫 集英社 1983  
新訳楚辞 青木正児 春秋社 1957(青木正児全集4 春秋社 1973)  
訳注楚辞 橋本循 岩波文庫 1957  
楚辞・近思録(漢文大系22) 岡田正之・井上哲次郎 富山房 1978  
楚辞(中国の古典20) 黒須重彦 学習研究社 1982  
中国の悲歌の誕生 - 屈原とその時代 F・テーケイ著/羽仁協子訳 風濤社 1972

## 【前漢・後漢】

### 思想

- 漢代研究文献目録 早苗良雄編 朋友書店 1979  
秦漢思想史研究 金谷治 平楽寺書店 1981  
周漢思想研究 重沢俊郎 弘文堂書房 1943  
兩漢學術考 狩野直喜 筑摩書房 1964  
漢代における礼学の研究 藤川正数 風間書房 1985  
中国の科学思想 - 兩漢天学考(中国学芸叢書) 川原秀城 創文社 1996  
『淮南子』と諸子百家思想 向井哲夫 朋友書店 2002  
淮南子の思想 - 老莊的世界 金谷治 講談社 1992  
塩鉄論 - 漢代の經濟論争(東洋文庫) 佐藤武俊訳注 平凡社 1970  
論衡 - 漢代の異端的思想(東洋文庫) 大滝一雄訳 平凡社 1965  
司馬遷 パートン・ワトソン著/今鷹真訳 筑摩叢書 1965  
史記 春秋戦国・楚漢・漢武篇(新訂中国古典選) 田中謙二・一海知義 朝日新聞社 1966,67  
史記(鑑賞中国の古典) 福島正 角川書店 1989  
漢書(中国詩文選) 福島吉彦 筑摩書房 1976  
漢書 1-8 小竹武夫訳 筑摩書房 1998

### 古楽府

- 古楽府(中国の名詩鑑賞2) 堀内公平 明治書院 1976  
古楽府・散曲(中国詩文選22) 田中謙二 筑摩書房 1983  
古楽府 岡村貞雄・小尾郊一 東海大学出版社 1980  
楽府の歴史的研究(東洋学叢書) 増田清秀 創文社 1975  
古楽府の起源と継承 岡村貞雄 白帝社 2000  
「上林楽府の所在地について」 松本幸男 学林19号(魏晉詩壇の研究 朋友書店 1995)  
「五言詩発生の時期に対する疑問」 鈴木虎雄 史林1919・4月号  
「班固の詠史詩について」 吉川幸次郎 神田博士還暦記念書誌学論集 1957  
(吉川幸次郎全集6 筑摩書房 1968)  
「班固歌詩をめぐる問題」 松本幸男 学林創刊号(魏晉詩壇の研究 朋友書店 1995)

## 【魏晉六朝】

### 思想

- 魏晉學術考 狩野直喜 筑摩書房 1968  
六朝道教思想の研究(東洋学叢書) 神塚淑子 創文社 1999  
六朝道教儀禮の研究 山田利明 東方書店 1999  
中国思想の流れ 上 兩漢・六朝 橋本高勝編 晃洋書房 1996  
六朝仏教思想の研究 小林正美 創文社 1993  
六朝道教史研究(東洋学叢書) 小林正美 創文社 1990  
道教典籍目録・索引 - 六朝唐宋の古文献所引 大淵忍爾・石井昌子編 国書刊行会 1988  
六朝精神史研究 吉川忠夫 同朋舎出版 1984  
六朝士大夫の精神 森三樹三郎 同朋舎出版 1986  
顔氏家訓(中国古典新書) 宇野精一 明德出版社 1982

### 詩・文

- 新文選学 清水凱夫 研文出版 1999  
文選(新釈漢文大系14-15,79-83,93) 内田泉之助ほか 明治書院 1963  
文選(全釈漢文大系26-32) 花房英樹・小尾郊一 集英社 1974  
文選(鑑賞中国の古典12) 興膳宏・川合康三 角川書店 1988  
文選(中国の古典23-24) 高橋忠彦 学習研究社 1985  
玉台新詠 鈴木虎雄 岩波文庫 1953

- 玉台新詠（中国の古典25） 石川忠久 学習研究社 1986  
 玉台新詠（新釈漢文大系60-61） 内田泉之助 明治書院 1974  
 文心雕龍（新釈漢文大系） 戸田浩暁 明治書院 1978  
 鐘嶸詩品 高木正一 東海大学出版会 1978  
 抱朴子・列仙伝（鑑賞中国の古典） 尾崎正治ほか 角川書店 1988  
 中国人の機智 - 世説新語 を中心として 井波律子 中公新書 1983  
 世説新語（鑑賞中国の古典） 井波律子 角川書店 1988  
 西晋文学研究 - 陸機を中心として 佐藤利行 白帝社 1995  
 六朝文学論文集 清水凱夫 重慶出版社 1989  
 中国文章論 六朝麗指 古田敬一・福井佳夫 汲古書院 1990  
 漢魏詩の研究 鈴木修次 大修館書店 1967  
 魏晉詩壇の研究 松本幸男 朋友書店 1995  
 建安詩人とその伝統（東洋学叢書） 伊藤正文 創文社 2002  
 六朝唐詩論考（東洋学叢書） 高木正一 創文社 1999  
 六朝詩人伝 興膳宏 大修館書店 2000  
 六朝詩人群像 興膳宏 大修館書店 2001  
 古詩源（上）（下）（漢詩大系） 内田泉之助・星川清孝 集英社 1964,65  
 古詩選（新訂中国古典選） 入谷仙介 朝日新聞社 1966  
 曹植（中国詩人選集3） 伊藤正文 岩波書店 1958  
 曹操 - 矛を横たえて詩を賦す（中国の英傑4） 川合康三 集英社 1986  
 曹操 - 三国志の奸雄 竹田晃 講談社学術文庫 1996  
 阮籍の生涯と詠懐詩 松本幸男 木耳社 1977  
 阮籍の詠懐詩について 吉川幸次郎 岩波文庫 1981  
 阮籍と嵇康の文学（東洋学叢書） 大上正美 創文社 2000  
 潘岳・陸機（中国詩文選10） 興膳宏 筑摩書房 1973  
 謝靈運（中国の詩人3） 船津富彦 集英社 1983  
 謝靈運 - 孤独の山水詩人 小尾郊一 汲古書院 1983  
 謝靈運伝論 小尾郊一 小尾郊一退官記念事業会 1976  
 庾信 - 望郷詩人（中国の詩人4） 興膳宏 集英社 1983  
 庾信研究 矢嶋美都子 明治書院 2000  
 中国古小説選 六朝志怪・唐代伝奇 本間洋一編 和泉書院 1991

## 陶淵明

- 陶淵明（中国詩人選集4） 一海知義 岩波書店 1958（新修1 1984）  
 陶淵明・文心雕龍（世界古典文学全集25） 一海知義・興膳宏 筑摩書房 1968  
 陶淵明 - 隱逸詩人（中国の詩人2） 松枝茂夫・和田武司 集英社 1983  
 陶淵明（中国名詩鑑賞1） 星川清孝 小沢書店 1996  
 陶淵明（中国詩文選11） 都留春雄 筑摩書房 1974  
 陶淵明全集 松枝茂夫・和田武司 岩波文庫 1990  
 陶淵明伝 吉川幸次郎 中公文庫 1989  
 陶淵明とその時代 石川忠久 研文出版 1994

## 【 唐 】

### 思想

- 五経正義の研究 - その成立と展開 野間文史 研文出版 1998  
 唐代の思想と文化（東洋学叢書） 西脇常記 創文社 2000  
 中国思想の流れ 中 隋唐・宋元 橋本高勝編 晃洋書房 1996  
 隋唐道教思想史研究 砂山稔 平河出版社 1990  
 史通外篇 西脇常記編訳注 東海大学出版会 2002

## 文学（総記）

- 唐代の詩と散文 吉川幸次郎 弘文堂 1943  
唐才子伝之研究 布目潮瀨・中村喬 大阪大学アジア史研究会 1972  
唐代文学の研究 山田勝久 笠間選書 1984  
唐宋文学論考 算文生 創文社 2002  
四庫全書総目提要唐詩集の研究 近藤光男 研文出版 1984  
唐代文学と仏教の研究 平野顯照 朋友書店 1978  
妓女と中国文人 斎藤茂 東方書店 2000  
唐宋八家文（上）（下）（新訂中国古典選） 清水茂 朝日新聞社 1966  
唐宋八家文（鑑賞中国の古典） 算文生 角川書店 1989

## 唐詩総論

- 唐詩 村上哲見 講談社学術文庫 1998  
唐詩概説（中国詩人選集別巻） 小川環樹 岩波書店 1958  
唐代の詩人 - その伝記 小川環樹 大修館書店 1975  
唐詩選（朝日選書中国古典選25-28） 高木正一 朝日新聞社 1996  
唐詩選（新釈漢文大系19） 目加田誠 明治書院 1964  
唐詩選 石川忠久 東方書店 1989  
唐詩選（中国の古典27-29） 中島敏夫 学習研究社 1982-86  
唐詩（現代教養文庫） 松浦友久 社会思想社 1972  
唐詩三百首（東洋文庫） 目加田誠 平凡社 1973-75  
唐詩選 前野直彬 岩波文庫 1961  
唐詩選（ちくま学芸文庫） 今鷹真ほか 筑摩書房 1994  
唐詩選（漢詩大系6-7） 齋藤响 集英社 1964  
唐代詩人論 鈴木修次 講談社学術文庫 1979  
三体詩（中国古典選29-32） 村上哲見 朝日文庫 1978  
唐代詩集（中国古典大系17-18） 田中克己 平凡社 1969  
唐代詩史（目加田誠著作集6） 目加田誠 龍溪書舎 1981  
全唐詩雜記 小川昭一 彙文堂書店 1969  
唐代の詩人達 前野直彬 東京堂出版 1971  
唐詩 - その伝達の間 鈴木修次 NHKブックス 1976  
詩語の諸相 - 唐詩ノート（増訂版） 松浦友久 研文出版 1995  
唐詩の世界 入谷仙介 筑摩書房 1990  
唐詩の風景 植木久行 講談社学術文庫 1999  
唐詩歳時記 植木久行 講談社学術文庫 1995  
唐詩物語（あじあブックス） 植木久行 大修館書店 2002  
詩轍 三浦梅園 中文出版社 1977  
唐詩鑑賞辞典 前野直彬 東京堂 1970  
校注唐詩解釈辞典 松浦友久 大修館書店 1987  
続校注唐詩解釈辞典 松浦友久 大修館書店 2001

## 初唐・盛唐詩

- 初唐（中国の名詩鑑賞4） 田森襄 明治書院 1975  
王維の生涯と芸術 小林太市郎 全国書房 1944  
王維（中国詩人選集6） 都留春雄 岩波書店 1958  
王維（中国詩文選13） 入谷仙介 筑摩書房 1973  
王維詩集 小川環樹ほか 岩波文庫 1972  
王維研究（東洋学叢書） 入谷仙介 創文社 1976  
王維 - 審美詩人（中国の詩人5） 伊藤正文 集英社 1983  
孟浩然詩の研究 宋天鎬著 / 豊福健二訳 1994

岑参の辺塞詩 森野繁夫・新免恵子 溪水社 1988

## 李白

- 李白（中国詩人選集7-8） 武部利男 岩波書店 1957（新修2 1983）  
李白（漢詩大系8） 青木正児 集英社 1965（漢詩選8 1996）  
李白（中国詩文選14） 武部利男 筑摩書房 1973  
李白 - 飄逸詩人（中国の詩人6） 小尾郊一 集英社 1982  
李白全詩集（続国訳漢文大成） 久保天随 日本図書センター 1978  
李太白詩歌全解 大野実之助 早稲田大学出版部 1980  
天遊の詩人李白（中国の名詩4） 田中克己 平凡社 1982  
李白（鑑賞中国の古典16） 笈久美子 角川書店 1988  
李白（中国名詩鑑賞3） 前野直彬 小沢書店 1996  
李白詩選 松浦友久 岩波文庫 1997  
李白研究 - 抒情の構造 松浦友久 三省堂 1976  
李白の夢 武部利男 筑摩書房 1982  
李白 - 詩と心象（現代教養文庫） 松浦友久 社会思想社 1970  
李白伝記論 - 客寓の詩想 松浦友久 研文出版 1994  
李白と杜甫 高島俊男 講談社学術文庫 1997  
李白と杜甫 郭沫若著 / 須田禎一訳 講談社 1972

## 杜甫

- 杜詩 1~8 鈴木虎雄 岩波文庫 1963-66  
杜甫（漢詩大系9） 目加田誠 集英社 1965（漢詩選9 1996）  
杜甫（中国詩人選集9-10） 黒川洋一 岩波書店 1957（新修2 1983）  
杜甫（鑑賞中国の古典17） 黒川洋一 角川書店 1987  
杜甫（中国詩文選15） 黒川洋一 筑摩書房 1973  
杜甫詩選 黒川洋一 岩波文庫 1991  
杜甫の詩と生涯（目加田誠著作集7） 目加田誠 龍溪書舎 1984  
杜甫 - 沈鬱詩人（中国の詩人7） 森野繁夫 集英社 1982  
杜甫（中国名詩鑑賞4） 目加田誠 小沢書店 1996  
杜甫（中国古典入門叢書） 劉開揚著 / 橋本堯訳 日中出版 1984  
漂泊の詩人杜甫（中国の名詩5） 小野忍 平凡社 1983  
杜甫全詩集（続国訳漢文大成） 鈴木虎雄 日本図書センター 1978  
杜甫詩注 吉川幸次郎 筑摩書房 1977  
杜甫ノート 吉川幸次郎 新潮社 1970  
杜甫 高木正一 中公新書 1969  
杜甫の研究（東洋学叢書） 黒川洋一 創文社 1977  
杜甫研究 安東俊六 風間書房 1996  
杜甫私記 吉川幸次郎 筑摩叢書 1980  
杜甫論集 吉川幸次郎 筑摩叢書 1980  
杜甫伝 田中克己 講談社 1975  
杜甫とともに 黒川洋一 創文社 1982

## 中唐（詩・文）

- 中唐文人考 太田次男 研文出版 1993  
中唐文学の視角 松本肇・川合康三 創文社 1998  
終南山の変容 - 中唐文学論集 川合康三 研文出版 1999  
寒山（中国詩人選集） 入矢義高 岩波書店 1958  
寒山詩 入谷仙介・松村昂 筑摩書房 1970  
韓愈（中国詩人選集11） 清水茂 岩波書店 1958  
韓退之 - 豪放詩人（中国の詩人8） 前野直彬 集英社 1983

韓愈（漢詩大系） 原田憲雄 集英社 1964  
 韓退之全詩集（続国訳漢文大成） 久保天随 日本図書センター 1978  
 韓愈の生涯 前野直彬 秋山書店 1976  
 韓愈（世界古典文学全集） 清水茂 筑摩書房 1986  
 韓愈・柳宗元（中国詩文選16） 算文生 筑摩書房 1973  
 韓愈と柳宗元 - 唐代古文研究序説 小野四平 汲古書院 1995  
 柳宗元 - 枯淡詩人（中国の詩人9） 林田慎之助 集英社 1983  
 柳文研究序説 新海一 汲古書院 1987  
 李賀（中国詩人選集14） 荒井健 岩波書店 1959（李賀・李商隠 新修5 1984）  
 李賀（漢詩大系13） 齋藤响 集英社 1967  
 李賀詩集（中国の詩集6） 比留間一成 角川書店 1972  
 李賀詩選 黒川洋一 岩波文庫 1993  
 李賀論考（朋友学術叢書） 原田憲雄 朋友書店 1980  
 李賀歌詩編（東洋文庫） 原田憲雄 平凡社 1998  
 李長吉歌詩集 鈴木虎雄 岩波文庫 1987  
 元稹研究 花房英樹 彙文堂書店 1977

## 白居易

白居易研究講座 太田次男ほか 勉誠社 1993-98  
 白居易研究年報 白居易研究会 勉誠出版 2000～  
 白居易（中国詩人選集12-13） 高木正一 岩波書店（新修4 1983）  
 白楽天 - 諷諭詩人（中国の詩人10） 太田次男 集英社 1983  
 白居易（中国詩文選17） 平岡武夫 筑摩書房 1977  
 白楽天（鑑賞中国の古典） 西村富美子 角川書店 1988  
 白居易研究 花房英樹 世界思想社 1971  
 白氏文集（新釈漢文大系99,100,102） 岡村繁 明治書院 1988  
 白楽天（漢詩大系） 田中克己 集英社 1964（白居易 漢詩選10 1996）  
 白楽天 花房英樹 清水書院 1990  
 白楽天とその詩 近藤春雄 武蔵野書院 1994  
 白居易「諷諭詩」の研究 静永健 勉誠出版 2000～  
 白居易研究年報 白居易研究会 勉誠出版 2000  
 白居易 - 生涯と歳時記（朋友叢書） 平岡武夫 朋友書店 1998  
 白氏文集を読む 下定雅弘 勉誠社 1996  
 白楽天全詩集（国訳漢文大成） 佐久節 日本図書センター 1978  
 白氏文集の批判的研究 花房英樹 朋友書店 1974  
 旧鈔本を中心とする白氏文集本文の研究（上）（中）（下） 太田次男 勉誠社 1997

## 晩唐詩

晩唐（中国の名詩鑑賞7） 小川昭一 明治書院 1976  
 杜牧（漢詩大系14） 市野澤寅雄 集英社 1965  
 杜牧（中国詩人選7） 市野澤寅雄 集英社 1967  
 杜牧（中国詩文選18） 荒井健 筑摩書房 1974  
 杜牧（中国名詩鑑賞6） 市野澤寅雄 小沢書店 1996  
 杜牧詩選 松浦友久 植木久行 岩波文庫 2004  
 杜牧詩索引 改訂版 山内春夫 彙文堂書店 1986  
 杜牧の研究 山内春夫 彙文堂書店 1985  
 李商隠（中国詩人選集15） 高橋和巳 岩波書店 1958（李賀・李商隠 新修5 1984）  
 詩人の運命 - 李商隠詩論 高橋和巳作品集別巻 河出書房新社 1972  
 晩唐詩人考 - 李商隠・温庭筠・杜牧の比較と考察 桐島薫子 中国書店 1998  
 魚玄機・薛涛（漢詩大系15） 辛島驍 集英社 1964

## 伝奇小説

- 隋唐小説研究 内山知也 木耳社 1977  
唐代小説の研究 近藤春雄 笠間書院 1978  
中国の伝奇と美女 - 志怪・伝奇の世界 近藤春雄 武蔵野書院 1991  
唐宋伝奇集(上)(下) 今村与志雄 岩波文庫 1988  
唐代伝奇集(東洋文庫) 前野直彬編訳 平凡社 1963-64  
唐代伝奇(新釈漢文大系44) 内田泉之助・乾一夫 明治書院 1972

## 【 宋 】

### 思想

- 宋明哲学の本質 岡田武彦著 木耳社 1984  
宋明哲学序説 岡田武彦著 文言社 1977  
宋代の知識人 - 思想・制度・地域社会 宋代史研究会編 汲古書院 1993  
東京夢華録 - 宋代の都市と生活(東洋文庫) 孟元老著 / 入矢義高・梅原郁訳注 平凡社 1996  
中国近世における礼の言説 小島毅 東京大学出版会 1996  
朱子(中国文明選) 吉川幸次郎・三浦国雄 朝日新聞社 1976  
朱子学大系 1~14 明德出版社 1974-1983  
大学・中唐(新訂中国古典選) 島田虔次 朝日新聞社 1967  
近思録(上)(下)(中国文明選) 湯浅幸孫 朝日新聞社 1972,74  
朱子学的思惟 - 中国思想史における伝統と革新 有田和夫・大島晃編 汲古書院 1990  
朱子学と陽明学 島田虔次著 岩波書店 1967  
資治通鑑選(中国古典文学大系14) 頼惟勤ほか編訳 平凡社 1978  
資治通鑑(中国古典新書) 竹内照夫 明德出版社 1971

### 詩・文

- 宋詩概説(中国詩人選集二集1) 吉川幸次郎 岩波書店 1962  
宋詩選(中国古典選33-34) 入谷仙介 朝日新聞社 1979  
宋詩選(筑摩叢書74) 小川環樹 筑摩書房 1967  
宋詩選(漢詩大系16) 今関天彭ほか 集英社 1966  
宋詩 附金(中国の名詩鑑賞8) 佐藤保 明治書院 1978  
宋代詩詞(鑑賞中国の古典22) 山本和義ほか 角川書店 1988  
宋明の思想詩 松川健二 北海道大学図書刊行会 1982  
宋詩鑑賞辞典 前野直彬編 東京堂出版 1977  
欧陽脩 - その生涯と宗族 小林義廣 創文社 2000  
梅堯臣(中国詩人選集二集3) 笈文生 岩波書店 1962  
王安石(中国詩人選集二集4) 清水茂 岩波書店 1962  
王安石(中国人物叢書2) 小野寺郁夫 人物往来社 1967  
王安石 佐伯富 中央公論社 1990  
王安石 - 濁流に立つ(中国の人と思想) 三浦国雄 集英社 1985  
王安石事典 東一夫 国書刊行会 1980  
黄庭堅(中国詩人選集二集7) 荒井健 岩波書店 1963  
黄山谷(漢詩大系17) 倉田淳之助 集英社 1967(黄庭堅 漢詩選12 1997)  
黄庭堅 全二冊 中田勇次郎 二玄社 1994  
滄浪詩話(中国古典新書) 市野澤寅雄 明德出版社 1976

### 蘇軾

- 蘇東坡詩集 小川環樹 筑摩書房 1983  
蘇軾(上)(下)(中国詩人選集二集5-6) 小川環樹 岩波書店 1962(新修6 1983)  
蘇東坡詩選 小川環樹・山本和義 岩波文庫 1975  
蘇軾詩注 1~4 小川環樹・山本和義 筑摩書房 1963-90

蘇東坡集（中国文明選） 小川環樹・山本和義 朝日新聞社 1972  
蘇軾（中国詩文選19） 山本和義 筑摩書房 1973  
蘇東坡（漢詩大系） 近藤光男 集英社 1964  
蘇東坡 - 天才詩人（中国の詩人11） 横田輝俊 集英社 1983  
蘇軾・陸游（鑑賞中国の古典21） 村上哲見・浅見洋二 角川書店 1989  
詩人と造物 蘇軾詩論考 山本和義 研文出版 2002  
蘇東坡全詩集（続国訳漢文大成） 岩垂憲徳ほか 日本図書センター 1978

## 陸 游

陸游（中国詩人選集二集8） 一海知義 岩波書店 1962（陸游・高啓 新修7 1984）  
陸游（中国詩文選20） 小川環樹 筑摩書房 1974  
陸游 - 円熟詩人（中国の詩人12） 村上哲見 集英社 1983  
陸放翁詩解 鈴木虎雄 弘文堂 1951  
陸放翁鑑賞（河上肇全集） 一海知義校注 岩波書店 1982  
陸游研究書誌(1)(2) 野原康宏 未名10・12号 1992,94  
入蜀記（東洋文庫） 岩城秀夫訳 平凡社 1986

## 唐宋詞

宋詞の世界（あじあブックス） 村上哲見 大修館書店 1973  
宋代の詞 中田勇次郎 弘文堂書房 1940  
歴代名詞選（漢詩大系24） 中田勇次郎 集英社 1965（漢詩選15 1997）  
中国名詞選（新釈漢文大系84） 馬嶋春樹 明治書院 1975  
宋詞評釈 波多野太郎 桜楓社 1975  
宋代詞集（中国古典文学大系20） 倉石武四郎ほか 平凡社 1970  
宋代詩集（中国の古典33） 佐藤保 学習研究社 1986  
唐宋詩集（筑摩世界文学大系8） 小川環樹ほか 筑摩書房 1975  
李煜（中国詩人選集16） 村上哲見 岩波書店 1959  
読詞叢考（東洋学叢書） 中田勇次郎 創文社 1998  
宋詞研究（東洋学叢書） 村上哲見 創文社 1976  
唐宋詞研究 青山宏 汲古書院 1991  
中国古典詩歌の手法と言語 宇野直人 研文出版 1991

## 【金・元】

大モンゴルの時代（世界の歴史9） 杉山正明・北川誠一 中央公論社  
元明詩概説（中国詩人選集二集2） 吉川幸次郎 岩波書店 1963  
宋元明清詩集（中国古典文学大系19） 前野直彬 平凡社 1973  
元・明詩（中国の名詩鑑賞9） 福本雅一 明治書院 1976  
元好問（中国詩人選集二集2） 小栗英一 岩波書店 1963  
元好問（漢詩大系20） 鈴木修次 集英社 1965  
近代詩集（中国文明選9） 入谷仙介ほか 朝日新聞社 1971  
耶律楚材文集（中国古典新書続編） 松崎光久 明德出版社 2001  
定本湛然居士文集訳 飯田利行 国書刊行会 1996  
「明七子の先声 - 楊維禎の文学観について」 前野直彬 春草考第11章 秋山書店  
「楊維禎論」 要木純一 島根大学法文学部紀要（文学科） 17-1 1992  
「薩天錫の詩」 桑山龍平 中国語雑誌6 1951

## 元 曲

戯曲集（上）（中国古典文学大系52） 田中謙二ほか訳 平凡社 1970  
元曲五種（東洋文庫） 池田大伍訳・田中謙二補注 平凡社 1975  
元人雜劇序説 青木正児 弘文堂 1937  
元雜劇研究 吉川幸次郎 岩波書店 1948

元曲金銭記 吉川幸次郎 筑摩書房 1943  
元曲酷寒亭 吉川幸次郎 筑摩書房 1948

## 【 明 】

### 思想

明代思想研究 - 明代における儒教と仏教の交流 (東洋学叢書) 荒木見悟 創文社 1978  
明代思想史 容肇祖著 / 松川健二等訳 北海道中国哲学会 1965  
陽明学大系 1~13 荒木見悟ほか編 明德出版社 1971-74  
王陽明集 (中国文明選) 島田虔次 朝日新聞社 1975  
伝習録 (鑑賞中国の古典) 吉田公平 角川書店 1988  
明夷待訪録 - 中国近代思想の萌芽 (東洋文庫) 西田太一郎訳 平凡社 1964

### 詩・文

高啓 (中国詩人選集二集10) 入谷仙介 岩波書店 1962 (陸游・高啓 新修7 1984)  
高青邱 (漢詩大系21) 蒲池歎一 集英社 1966  
高青邱 (東洋思想叢書) 土岐善麿 日本評論社 1942  
袁宏道 (中国詩人選集二集11) 入矢義高 岩波書店 1963  
明代詩文 (中国詩文選23) 入矢義高 筑摩書房 1978  
明・清の三詩説 松下忠 明治書院 1978

### 小説・戯曲 (研究書)

中国小説史の研究 小川環樹 岩波書店 1968  
中国小説研究 内田道夫 評論社 1977  
中国の八大小説 - 中国近世小説の世界 大阪市立大学中国文学研究室編 平凡社 1965  
中国近世における短篇白話小説の研究 小野四平 評論社 1978  
中国小説史研究 - 水滸伝を中心として 中鉢雅量 汲古書院 1996  
中国小説選 (鑑賞中国の古典) 金文京 角川書店 1989  
中国戯曲演劇研究 岩城秀夫 創文社 1973  
中国古典劇の研究 岩城秀夫 創文社 1986  
日用類書による明清小説の研究 小川陽一 研文出版 1995  
水滸伝の世界 高島俊男 大修館書店 1987  
水滸伝と日本人 - 江戸から昭和まで 高島俊男 大修館書店 1991  
西遊記の研究 太田辰夫 研文出版 1984  
西遊記の秘密 中野美代子 福武書店 1984  
西遊記形成史の研究 磯部彰 創文社 1993  
西遊記 トリックワールド探訪 中野美代子 岩波新書 2000  
孫悟空はサルかな? 中野美代子 日本文芸社 1992  
三国志演義 井波律子 岩波新書 1994  
三国志演義の世界 金文京 東方書店 1993  
花開索伝の研究 井上泰山ほか 汲古書院 1989  
三言二拍本事論考集成 小川陽一 新典社 1981  
中国のグロテスクリアリズム 井波律子 平凡社 1992  
董解元西席記諸宮調研究 金文京ほか 汲古書院 1998  
明清の戯曲 田仲一成 創文社 2000  
宋明清小説叢考 澤田瑞穂 研文出版 1982

## 【 清 】

### 思想

清朝史通論 内藤湖南 平凡社 1993  
清朝考証学の研究 近藤光男 研文出版 1987

清代考据学の思想史的研究 濱口富士雄 国書刊行会 1994  
清朝考証学とその時代(中国学芸叢書) 木下鉄矢 創文社 1996  
清代政治思想史研究 大谷敏夫 汲古書院 1991  
清代学術概論 - 中国のルネッサンス 梁啓超著/小野和子訳注 平凡社 1974  
清代禁書の研究 岡本さえ 東京大学出版会 1996  
章学誠の知識論 - 考証学批判を中心として(東洋学叢書) 山口久和 創文社 1998  
顧炎武集(中国文明選) 清水茂 朝日新聞社 1974  
国朝漢学師承記(上)(中)(下) 近藤光男訳注 明治書院 2001

## 詩・文

清朝の制度と文学 狩野直喜 みすず書房 1984  
清代文学評論史(青木正児全集1) 青木正児 春秋社 1969  
清詩選(漢詩大系22) 近藤光男 集英社 1967(漢詩選14 1997)  
宋明清三朝の詩壇と詩派について 菅谷軍次郎 宮城学院女子大学研究論文集11 1957  
王士禎(中国詩人選集二集13) 高橋和巳 岩波書店 1962  
王漁洋(漢詩大系23) 橋本循 集英社 1965  
呉偉業(中国詩人選集) 福本雅一 岩波書店 1962  
袁枚伝 アーサー・ウェイリー著/松本幸男訳 彙文堂 1992  
袁枚の性霊説の特色 松下忠 東方学35 1968  
龔自珍(中国詩人選集) 田中謙二 岩波書店 1962  
黄遵憲(中国詩人選集) 島田久美子 岩波書店 1963  
日本雑事詩(東洋文庫) 実藤恵秀・豊田穰 平凡社 1968年  
清末民初を中心とした中国近代詩の研究 倉田貞美 大修館書店 1969  
聊斎志異(上)(下)(中国古典文学大系) 増田涉ほか訳 平凡社 1978  
清末小説閑談 樽本照雄 法律文化社 1983  
清末小説論集 樽本照雄 法律文化社 1992  
清末小説叢考 樽本照雄 汲古書院 2003  
新編清末民初小説目録 樽本照雄 清末小説研究会 1997  
晚清小説研叢 中島利郎 汲古書院 1997

## 【現代】

中国現代文学事典 丸山昇他編 東京堂出版 1985  
中国現代文学研究ガイド 中国文芸研究会編 1985  
原典で読む図説中国20世紀文学 - 解説と資料 中国文芸研究会編 白帝社 1995  
中国現代文学史 - 革命と文学運動 菊地三郎 青木書店 1953  
中国新文学運動史(正)(続) 尾坂徳司 法政大学出版局 1957,65  
現代の中国文学 小野忍 毎日新聞社 1958  
中国近代文学史(上)(下) 実藤遠 淡路書房新社 1960  
中国文学史研究 - 文学革命 と前夜の人々 増田涉 岩波書店 1967  
中国の現代文学 小野忍 東京大学出版会UP選書 1972  
現代の中国文学 相浦泉 NHKブックス 1972  
現代中国の文学 竹内実 研究社叢書 1972  
中国現代文学史 吉田富夫 朋友書店 1996  
新中国の芸術家たち フェドレンコ著/木村浩訳 朝日新聞社 1960  
近代中国の思想と文学 東京大学中文研究室編 大安 1967  
近代文学における中国と日本 伊藤虎丸ほか編 汲古書院 1986  
中国文学雑考 小野忍 大安 1967  
現代中国文学の理論と思想 丸山昇 日中出版 1974  
文革の軌跡と中国研究 丸山昇 新日本出版社 1981

中国文学論考 相浦泉 未来社 1990  
求索 - 中国文学語学 相浦泉 未来社 1993  
声無き処に驚雷を聴く - 文化大革命 後の中国文学 高島俊男 日中出版 1981  
文学の自立を求めて - 今日の中国文学を読む 高島俊男 日中出版 1983  
中国文学最新情報 竹内実・萩野脩二編 サイマル出版会 1987  
十五年戦争と文学 - 日中近代文学の比較研究 山田敬三・呂元明編 飯塚書店 1964  
変革期の詩人たち - 現代中国詩人論 秋吉久紀夫 東方書店 1991  
よみがえる台湾文学 - 日本統治期の作家と作品 下村作次郎ほか編 東方書店 1995  
北京苦住庵記 - 日中戦争時代の周作人 木山英雄 筑摩書房 1978  
郁達夫 - その青春と詩 稲葉昭二 東方書店 1982  
スマトラの郁達夫 鈴木正夫 東方書店 1995  
沈從文 - 人と作品 小島久代 汲古書院 1997

## 魯迅

章炳麟・章士釗・魯迅 - 辛亥の死と生と 高田淳 龍溪書舎 1974  
魯迅 竹内好 日本評論社 1944  
新編魯迅雑記 竹内好 勁草書房 1976  
続魯迅雑記 竹内好 勁草書房 1978  
魯迅の印象 増田渉 講談社 1948  
魯迅その文学と革命 丸山昇 平凡社 1965  
魯迅と革命文学 丸山昇 紀伊國屋新書 1972  
魯迅と伝統 今村与志雄 勁草書房 1967  
魯迅と一九三〇年代 今村与志雄 研文出版 1982  
魯迅ノート 今村与志雄 筑摩書房 1987  
魯迅と現代 佐々木基一・竹内実編 勁草書房 1968  
魯迅詩話 高田淳 中公新書 1971  
魯迅遠景 竹内実 田畑書店 1978  
魯迅周辺 竹内実 田畑書店 1981  
魯迅と終末論 - 近代リアリズムの成立 伊藤虎丸 龍溪書舎 1975  
魯迅と日本人 - アジアの近代と“個人”の思想 伊藤虎丸 朝日新聞社 1983  
魯迅の世界 山田敬三 大修館書店 1977  
魯迅私論 尾上兼英 汲古書院 1988  
魯迅 - 花のため腐草となる(中国の人と思想) 丸尾常喜 集英社 1985  
魯迅 - 人 鬼 の葛藤 丸尾常喜 岩波書店 1993  
魯迅「野草」の研究 丸尾常喜 汲古書院 1997  
魯迅のなかの古典 林田慎之助 創文社 1981  
ロシアの影 - 夏目漱石と魯迅 藤井省三 平凡社 1985  
仙台における魯迅の記録 仙台における魯迅の記録を調べる会編 平凡社 1978  
魯迅「故郷」の読書史 藤井省三 創文社 1997  
魯迅の紹興 裘士雄等著/木山英雄訳 岩波書店 1990  
魯迅の思い出 内山完造 社会思想社 1979  
魯迅と内山完造 小泉讓 講談社 1979  
魯迅事典 藤井省三 三省堂 2002

## 【雑誌】

月刊しにか しにか編集室 大修館書店  
アジア遊学 勉誠出版  
日本中国学会報 日本中国学会  
中唐文学会報 中唐文学会

橄欖 早稲田大学宋代詩文研究会  
東方学 東方学会  
学林 中国芸文研究会  
中国文学報 京都大学文学部中国語学中国文学研究室

## 7 中国文学関連Webサイト

### 【研究機関】

京都大学 人文科学研究所 <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>  
同上 付属漢字情報研究センター <http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>  
文字文化研究所 <http://www.mojiken.com/>  
大東文化大学 中国文学科 黄寅洞 <http://www.daito.ac.jp/~oukodou/>  
大東文化大学 文学部 中国文学科 <http://www.daito.ac.jp/~y-wata/chn-lit/>  
茨城大学 二階堂研究室 <http://nika01.hum.ibaraki.ac.jp/~nikaido/>  
小樽商科大学 萩原研究室 <http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~hagiwara/>  
金沢大学 文学部 中国語学中国文学研究室 <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~chinese/chubun.html>  
関西大学 文学部 中国語中国文学科 <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moriset/>  
九州大学 文学部 中国文学研究室 <http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~shizuka/zw/>  
東北大学 文学部 中国文学研究室 <http://www.sal.tahoku.ac.jp/zhongwen/>  
日本大学 文理学部 中国文学科 [http://www.chs.nihon-u.ac.jp/ch\\_dpt/](http://www.chs.nihon-u.ac.jp/ch_dpt/)  
広島大学 中国語学中国文学研究室 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/cbn/>  
仏教大学 中国文学科 <http://www.bukkyo-u.ac.jp/org/chubun/index.html>  
早稲田大学 文学部 中国文学専修 <http://www.littera.waseda.ac.jp/major/chubun/gakubu/>  
大阪大学 中国哲学研究室 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/index.html>  
東洋大学 中国哲学文学科 <http://bunbun.toyo.ac.jp/chutetsu/index.htm>  
新潟大学 中国思想史研究室 <http://hyena.hle.niigata-u.ac.jp/indexj.html>

### 【個人】

過立齋 <http://www.karitsu.org/>  
電腦瓦崗寨 <http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/>  
睡人亭 <http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~tyv07679/index-j.html>  
雨粟莊 <http://village.infoweb.or.jp/~fxba0016/index.html>  
中国と遊ぼう <http://www.geocities.jp/jialaid/>

### 【リンク集】

中国情報局 <http://searchina.ne.jp/>  
中国網頁搜尋器 <http://www.ne.jp/asahi/sinology/lib/>

### 【外国語サイト】 中国語のサイトを見るには、中国語のフォント（GB・Big5など）が必要です。

故宮《寒泉》古典文献全文検索資料庫 <http://210.69.170.100/s25/index.htm>  
新語絲 <http://www.xys.org/>  
中央研究院漢籍電子文献 <http://www.sinica.edu.tw/ftms-bin/ftmsw3>  
中央研究院歷史語言研究所 <http://www.ihp.sinica.edu.tw/final/>  
中華文化網 <http://www.geocities.com/Area51/Hollow/3198/>  
中国文化資料集 <http://www.cs.ust.hk/~khchung/literature/>  
北京大学全唐詩電子検索系統 <http://chinese.pku.edu.cn/tang/>  
全唐詩網頁 <http://members.xoom.com/tangpoetry/>  
元智大学中国文学網路研究室 宋詩 <http://cls.admin.yzu.edu.tw/QSS/HOME.HTM>

## 8 中国文学基本書解説 (50音順)

### 楽府詩集【がふししゅう】

宋の郭茂倩が編纂した上古から唐五代までの楽府・歌謡の総集。収録作品数は、作者の明らかなもの577人3,793首、作者の不明なもの1,497首。古代から中世までの楽府はほぼ網羅しており、全体は楽府の性格により12に分類され、楽府題ごとに詳しい解題が付いている。中華書局「中国古典文学基本叢書」から標点本が出ている。また、中津浜涉『楽府詩集の研究』(汲古書院)には、北京図書館所蔵の最良のテキストである宋本の影印も掲載されており参考になる。なお、余冠英『楽府詩選』(人民文学出版社)、黄節『漢魏楽府風箋』(人民文学出版社)、王先謙『漢魏歌辞文箋正』(芸文印書館)等も利用したい。

### 玉台新詠【ぎょくだいしんえい】

梁の簡文帝の命を受けて、陳の徐陵が編集した艶詩の選集。中華書局「中国古典文学基本叢書」から標点本の清の呉兆宜『玉台新詠箋注』が出ている。小尾郊一・高志真夫編『玉台新詠索引』(山本書店)がある。

### 芸文類聚【げいもんるいじゅう】

唐の高祖の勅命により、欧陽詢らが編纂した類書。46部門に分類されている。本書は長い間詩文を作るために利用されてきたが、現在では、主に原本が失われて見ることのできない唐代以前の文献資料の宝庫として極めて重要な書物になっている。利用するには、上海古籍出版社の索引付きの圈点本が便利である。なお、類書については、胡道静『中国古代的類書』(中華書局)を参照のこと。

### 広韻【こういん】

北宋の陳彭年らが勅命によって編纂した韻書。正式には『大宋重修広韻』といい126,194字を206韻に分類して収める。六朝から唐代の中古漢語を知るためには不可欠な資料である。唐代の詩人は、本書のもとになった『切韻』を作詩の基準としたが、『切韻』の原本はなくなってしまったため、『広韻』の存在は重要である。普通使用するには、周祖謨の校勘による『宋本広韻』(芸文印書館)が良いが、より詳細なものとしては、林尹『新校正切宋本広韻』(黎明文化事業公司)、余迺永『互註校正宋本広韻』(聯貫出版社)、さらにそれを増補した『新校互註宋本広韻』(中文大学出版社)がある。なお、趙誠『中国古代韻書』(中華書局)を参照のこと。

### 爾雅【じが】

中国最古の辞書。戦国時代から前漢にかけて徐々に成立したと言われる。釈詁・釈言・釈訓では動詞・形容詞・代名詞等を集め、それ以下は釈器・釈天・釈木・釈蟲等、その篇名のもとそれに関する名詞を集めている。晋の郭璞が注を付けているが、それを含んだ清の郝懿行『爾雅義疏』が便利である。『爾雅義疏』は中国書店・芸文印書館の影印があるが、いまだ標点本はない。近人徐朝華の『爾雅今注』(南開大学出版社)が索引付きの横組標点本であるが、『義疏』の意見はあまり取り入れられていない。テキストとしては様々あるが、宋監本を底本として影印し周祖謨が校勘を付けた『爾雅校箋』(江蘇教育出版社)がよいだろう。

### 四庫全書【しこぜんしょ】

清の乾隆帝の勅命により、紀昀が総編纂官となり、230人の学者が編集に携わって、1781年に完成した四部分類による一大叢書。『永楽大典』に収める書、宮中の蔵書、地方で発見された書、献上された書、巷間に流布している書等あらゆる書物の中から重要なものを選び出し、校定して写本を作り上げた。それを四部に分類し四つの書庫に分けて保存したのである。10年かかって3,462種、79,582巻の書を写して完成した。写本は全て七部作られ、朝廷用としてそれぞれ宮城内の文淵閣、奉天の文溯閣、熱河避暑山莊内の文津閣、圓明園内の文源閣に、一般用に揚州大觀堂内の文匯閣、鎮江金山寺内の文宗閣、杭州聖因寺内の文瀾閣に収められた。七閣中、文匯・文宗の二閣は太平天国の乱で、文源閣は義和團の乱で焼失し、他のものも引き続き戦乱により移動を余儀なくされた。現在では、文淵閣のものは北京故宮博物院に、文溯閣のものは遼寧省図書館に、文津閣のものは北京図書館に、文瀾閣のものは浙江図書館にそれぞれ保管されている。数社から文淵閣本の影印が出版されているが、抄本であることもあり、その歴史的価値に比べテキストにするには問題がある。「四庫全書」以外では容易に見られない書に限って利用すべきであ

ろう。立命館大学では図書館に影印本がある。

## 四庫全書総目（四庫提要）【しこぜんしょそうもく（しこていよう）】

乾隆帝の敕命により紀昀が中心となって編集した。『四庫全書』の編纂に際し、各書の冒頭につけた提要（著者の小伝、その書の沿革・真偽、内容の大略等を要約した解題）のみを総合したもの。合計存書3,457種79,070巻、存目書6,766種93,516巻に及んでいる。縮印・影印し索引を付けたもの、および標点本（横組簡体字）が中華書局から出版されている。なお、利用に当たっては、胡玉縉『四庫全書総目提要補正』（中華書局）等、また、そのうち幾つかについては余嘉錫『四庫提要弁証』（中華書局）を参照したい。

## 詩品【しひん】

梁の鐘嶸が著した詩の評論書。古詩十九首、及び漢より梁までの詩人122人の五言詩を、上・中・下の三品に分けて品評を加えている。三品それぞれに序が付いており、約40人の詩人については先ずここで批評しているので、本文に劣らず重要な部分である。本書は詩論書の先駆けであり、『文心雕龍』とともに、中国文学評論史の上で最も重要な位置を占めている。上海古籍出版社「中国古典文学叢書」の曹旭『詩品集注』が利用しやすい。また、高木正一『鐘嶸詩品』（東海大学出版会）も参考になる。

## 四部叢刊【しぶそうかん】

張元済らが中心となって、上海の商務印書館が出版した主要な古典の影印本。初篇は1919年、続編は1934年、三篇は1935年に刊行された。善本を提供することに目標を置いており、商務印書館が秘蔵する涵芬樓蔵本、江南図書館蔵本、北京図書館蔵本、及び各地の家蔵本等を底本に影印している。しかし、印刷の過程で修正を加えている箇所もあり注意を要する。現在では、なお優れた版本も発見されており、何でも「四部叢刊」のテキストを利用すればよいというわけではない。

共同研究室のパソコンに、検索に便利な「電子版四部叢刊」が入っている（使用にあたっては共同研究室の使用についての頁を参照）。

## 四部備要【しぶびよう】

1920年から1936年にかけて編纂・出版された叢書で、336種が仿宋鉛活字により印刷されている。実用性の高いものが選ばれてはいるが、まま誤植があるので注意して用いたい。中華書局から影印本が出版されている。共同研究室に配架。

## 十三經注疏【じゅうさんきょう（けい）ちゅうそ】

儒教研究の基礎となる十三種の教典を、その解説（注・疏）とともに集めたもの（中国最古の辞書である『爾雅』もふくまれる）。南宋末に刊行されたが、時代を経るにつれ脱誤が多くなったため、清の阮元が家蔵の宋本等をもとに校勘し刊行した。これが現在一般に「十三經注疏」と呼ばれるものである。使用に当たっては、芸文印書館の影印本（八冊）よりも中華書局が縮印・影印した二冊本が字が小さいながらも便利。対応する索引として葉紹鈞編『十三經索引（重訂本）』（中華書局）、完全な一字索引の『十三經新索引』（中国廣播電視出版社）がある。また、最近、北京大学出版社と新文豊出版公司（台湾）から繁体字校点本が出版された。

- 1 周易正義（魏）王弼・（晋）韓康伯注（唐）孔穎達正義
- 2 尚書正義（漢）孔安国伝（唐）孔穎達正義
- 3 毛詩正義（漢）毛亨伝（漢）鄭玄箋（唐）孔穎達正義
- 4 周礼注疏（漢）鄭玄注（唐）賈公彦疏
- 5 儀礼注疏（漢）鄭玄注（唐）賈公彦疏
- 6 礼記正義（漢）鄭玄注（唐）孔穎達正義
- 7 春秋左伝正義（晋）杜預集解（唐）孔穎達正義
- 8 春秋公羊伝（漢）何休注疏（唐）徐彦解詁
- 9 春秋穀梁伝（晋）范甯注（唐）楊子勛疏
- 10 論語注疏（魏）何晏集解（宋）邢昺疏
- 11 孟子注疏（漢）趙岐注（宋）孫奭疏

- 12 孝經注疏 (唐)玄宗御注 (宋)邢昺疏
- 13 爾雅注疏 (晋)郭璞注 (宋)邢昺疏

### 諸子集成【しよししゅうせい】

1935年初版。国学整理社が編集し世界書局が出版した。各書に優れた注釈書を用いており、例えば、劉宝楠『論語正義』、焦循『孟子正義』、郭慶藩『莊子集釈』といった類である。鉛活字の圈点本で出版されたが、現在は中華書局・上海書店・河北人民出版社から重印されている。

### 新編諸子集成【しんぺんしよししゅうせい】

中華書局が「諸子集成」にならいい、それを大幅に増補し標点本の形で出版しているシリーズ。前述の『論語正義』『孟子正義』も含まれ、新式標点が施された。孫詒讓『墨子問詁』、王先謙『荀子集解』、楊伯峻『列子集釈』、朱謙之『老子校釈』、劉文典『淮南鴻烈集解』等有用なものが多い。また、1973年、湖南省長沙馬王堆漢墓から出土した帛書『老子』甲本・乙本をもとに詳細な校勘を行った『帛書老子校注』といったものもシリーズに含まれている。

### 説文解字(説文)【せつもんかいじ(せつもん)】

後漢の許慎が著した中国最古の字書。漢字の造字法を六書に分類し、540の部首を設け、9,353字を篆書で出し解説を加える。甲骨文字の存在は知られていなかったため、その字解には誤りが多いが、文字学の聖典として権威をもってきた。テキストとしては宋の徐鉉『説文解字』(大徐本)、徐鉉『説文解字繁伝』(小徐本)がある。注には清の段玉裁『説文解字注』があり、一般的に優れているとされる。上海古籍出版社の影印本がよい。また、稀覯の注釈書まで網羅した丁福保『説文詁林』(中華書局)は便利である。漢字そのものの研究、甲骨文・金文を使用する中国古代の研究には、白川静先生の『説文新義』『説文新義・通論篇』(五典書院)を参照したい。

### 全上古三代秦漢三国六朝文【ぜんじょうこさんだいしんかんさんごくりくちょうぶん】

清の嚴可均の編。上古より隋までの3,490余人の文章を佚文も含めて全て集め、各々出処を明らかにしている。本書に20年以上もの歳月をかけただけあって、正史から類書に至るまでくまなく渉獵している。中華書局から圈点の施された影印本が出ており、篇目・作者索引も別にあるので使いやすい。河北教育出版社から横組簡体字の点校本がある。なお、辞賦に限られるが、漢代の賦については『全漢賦』(北京大学出版社)があり、また、『先秦兩漢三国賦索引』(研文出版)は完全な一字索引であるので役立つであろう。

### 先秦漢魏晋南北朝詩【せんしんかんぎしんなんぼくちょうし】

24年の歳月をかけて近人遼欽立が編纂した。文字どおり上古から隋代までの詩篇の全てを集めている。依據文献と文字の異同を明示しており、その正確さはそれ以前多く利用されていた丁福保『全漢三国晋南北朝詩』を大きく凌駕している。中華書局から標点本が出ており、別に『先秦漢魏晋南北朝詩作者篇目索引』(中華書局)、中国詩文研究会編『先秦漢魏晋南北朝詩作者索引』(東方書店)が編まれている。

### 先秦兩漢古籍逐字索引叢刊【せんしんりょうかんこせきちくじさくいんそうかん】

商務印書館から刊行中。オックスフォード大学と香港中文大学が協力して、先秦兩漢を中心とした文献、約880万字をコンピュータ入力して作成された完全な一字索引である。索引ではあるが、標点・校勘を加えた原文をも付載しているのが特長である。魏晋南北朝古籍逐字索引叢刊も刊行中である。

### 全唐詩【ぜんとうし】

清の康熙帝の敕命により、彭定求らが編集した唐詩の総集。作者2,200余人、作品数48,900種にのぼる。しかし、なお遺漏があり、江戸時代の学者市河寬齋は、『文鏡秘府論』等載って伝存する詩を集めて『全唐詩逸』を著した(後に中国にもたらされて「知不足齋叢書」に収められた)。「全唐詩」については、中華書局の活字本(巻末に『全唐詩逸』を収める)が便利。別に陳尚君編『全唐詩補編』(中華書局)があり、敦煌出土の詩篇をも輯佚している。この両者に対応する張忱石『全唐詩作者索引』(中華書局)もある。近年、現代出版社・中華書局より各詩人毎の逐字索引が刊行されている。また、詩人どうしの詩の応酬については、吳汝煜編『唐五代人交往詩索引』(上海古籍出版社)があり、中華書局『全唐詩』に対応している。より専門的には、陝西人民教育出版社「唐詩研究集成」の修

培基『全唐詩重出誤集考』・陶敏『全唐詩人名考証』、山東教育出版社の楊建国『全唐詩 - 作校証集稿』等がある。また、平岡武夫編『唐代の詩篇』(同朋舎)は有用である。なお、著名な唐詩の選集としては、宋の周弼『三体詩』、伝明の李攀龍『唐詩選』等がある。前者は、七絶・五律・七律の三詩体の作品のみを494首集めたもので、特に中・晩唐期のものが多く、李白・杜甫に至っては一首も選ばれておらず、『唐詩選』と対照的である。後者は、杜甫・李白・王維といった盛唐の作品を中心に465首選んでおり、『三体詩』とは逆に中・晩唐期のものは少なく、白居易・杜牧は一首も選ばれていない。所収の詩は、全て明の高棟『唐詩品彙』(上海古籍出版社の影印本あり)から取られている。我が国での隆盛とは対照的に、中国では『四庫提要』が偽撰とみなしてからは全く顧みられなくなった。

## 宋詩鈔【そうししょう】

清の呉之振らが編集した宋代詩集の選集。宋の詩人84人の詩集が抄録されている。とはいえ、かなりの分量を集めているので、歴大な宋詩を概観するには重宝な書物である。中華書局の標点本がある。なお、北京大学出版社から『全宋詩』が、巴蜀書社から『全宋文』がそれぞれ刊行中である。

## 太平御覽【たいへいぎょらん】

宋の太宗の敕命により、李昉らが編纂した類書。1,000巻を55部門に分けており、太宗が一日三巻、一年間かけて閲覧したのでその名を賜ったという。既成の類書からの間接的な引用もあるが、やはり原書が失われたものも多く貴重である。テキストは、1935年に上海の商務印書館が影印した宋本がよい(「四郎叢刊三編」にも収められた)。これは、945巻を宮内庁書陵部・京都東福寺所蔵の南宋蜀刊本により、欠けたところを靜嘉堂文庫に蔵する他の宋刊残本等で補ったものである。同じものが中華書局からも影印されている。哈佛燕京学社『太平御覽・太平広記篇目及引書引得』がある。

## 中国古典文学基本叢書【ちゅうごくこてんぶんがくきほんそうしょ】

中華書局が、主に集部の書を標点本の形で出版しているシリーズ。向宗魯『説苑校証』、『楽府詩集』等もあるが、個人の別集が主体で、仇兆鰲『杜詩詳注』等有用なものが多い。

## 中国古典文学叢書【ちゅうごくこてんぶんがくきほんそうしょ】

上海古籍出版社が、主に集部の書を標点本の形で出版しているシリーズ。中華書局に対抗している感があり、多く、より詳細な注の施されたものを刊行している。

## 中国叢書綜録【ちゅうごくそうしょそうろく】

上海図書館編、上海古籍出版社刊行。「総目」「子目」「索引」の三部からなる。「総目」では、ほとんど全ての叢書の細目が記され、「子目」では、書名ごとにそれがどの叢書に収められているかが明らかにされている。「索引」は、人名、書名のどちらからでも引け、大変便利である。中国の古籍は単行される外に、後に某かの叢書に収録されることが多いので、たいがいこの本で検索できることになる。

## 中国歴史紀年表【ちゅうごくれきしきねんひょう】

上海人民出版社から刊行。「旧石器時代表」「新石器時代表」「夏世系表」「商世系表」「周世系表(共和以前)」の後、本書の主要部分である「西周共和以後中国歴史紀年表」が続き、西暦・十千十二支・元号・何王何年が表示されている。薄い小冊子ではあるが、繁雑な春秋戦国時代の各国の年表が一覧で示され、一目で理解できるなど大変便利である。

## 中国歴史地図表【ちゅうごくれきしちずしゅう】

譚其驤が主編、中国地図出版社から刊行。「原始社会・夏・殷・西周・春秋・戦国時期」から「清時期」まで、全8冊に分けて出版されている。それぞれの時代の政治区域・地名等が明瞭に表示されている。特長として、現代の地名が同時に色分けして表示されているので、古地名が、今のどの辺りに当たるのかが一目で分かるようになっている。各冊に地名索引が付いている。なお、香港三聯書店からは繁体字の精装本が出ている。また、全8冊の主要な部分を抜粋した『簡明中国歴史地図集』(中国地図出版社)もあり、普段利用するには、むしろこちらの方が便利である。

## 二十四史【にじゅうしし】

清の乾隆帝の時に、敕命によって決定された正史の総称。『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』『晋書』『宋書』『南齊書』『梁書』『陳書』『魏書』『北齊書』『周書』『隋書』『南史』『北史』『旧唐書』『新唐書』『旧五代史』『新五代史』『宋史』『遼史』『金史』『元史』『明史』の二十四種（いずれも中華書局の標点本あり）。正史とは、『史記』の体裁にならった紀伝体の歴史書のことである。故に、編年体で書かれた『資治通鑑』（中華書局の標点本あり）等を正史と呼ぶことはない。「二十四史」から『旧唐書』『旧五代史』『明史』を除いたものを「二十一史」と呼び、「二十四史」に『新元史』を加えたものを「二十五史」と言う。

## 佩文韻府【はいぶんいんぷ】

清の康熙帝の敕撰。韻で配列した類書であるため106巻となっている。韻字ごとに二字、三字、四字の熟語を並べ、熟語ごとに古典における豊富な用例を集めている。韻順の分類という点からも分かるように、元来は作詩のために作られたものであるが、現在では専ら熟語辞典としての使用が多い。利用には、商務印書館・上海書店の石印本の影印が、字が小さいながらも頭字から引ける索引付きで便利である。

## 文心雕龍【ぶんしんちょうりょう】

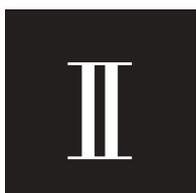
齊の劉勰が著した最初の体系的な文学評論書。50編からなり、本質論・文体論・修辭論が述べられている。上海古籍出版社「中国古典文学叢書」の詹鍇『文心雕龍義証』が利用しやすい。別に正文の付いた朱迎平編『文心雕龍索引』（上海古籍出版社）、岡村繁編『文心雕龍索引（改訂版）』（采華書林）がある。

## 文選【もんぜん】

梁の蕭統（昭明太子）の撰とされる中国最初の詩文選集。周代から梁代までの作者130人、作品760篇余りを選んでいる。唐の李善の注、呂延祚ら「五臣」の注をもって行われる。清の胡克家が刊刻した覆宋本（李善注）が芸文印書館から影印されており、逐字索引である斯波六郎編『文選索引』（京都大学人文科学研究所・上海古籍出版社）が対応する。近年、原書の宋本（南宋淳熙八年尤袤刻本）が発見され、中華書局から影印された。また、上海古籍出版社「中国古典文学叢書」から李善注の標点本も出ており見やすい。さらに、李善注には高步瀛『文選李注義疏』（中華書局の標点本あり）があり、巻八で終わっているのは惜しまれるが、「兩都賦」「兩京賦」「三都賦」「子虛賦」「上林賦」等を読解する時は、必ず参照すべきである。利用に当たっては、富永一登編『文選李善注引書攷証』『文選李善注引書索引』（研文出版）がある。なお、駱鴻凱『文選学』（中華書局）および『文選集注』（上海古籍出版社）、清水凱夫『新文選学』（研文出版）も参照のこと。

## 歴代詩話【れきだいしわ】

清の何文煥が歴代の著名な「詩話」（詩に関する逸話・逸事、詩論等を記したもの）を編集した書。27種を収める。後に丁福保は『歴代詩話統編』を編集している。両者ともに、中華書局から人名索引の付いた標点本が出ている。また、散逸した宋代の詩話を丹念に集めた郭紹虞『宋詩話輯佚』（中華書局）と宋代の詩話の各書について詳細に解説した郭紹虞『宋詩話考』（中華書局）は参考になる。なお、それぞれの詩話・評論書については、全てではないが、人民文学出版社の「中国古典文学理論批評專著選輯」に収められており有用である。最近、呉文治主編『宋詩話全編』（江蘇古籍出版社）が刊行されたが、これは宋代の詩人562人について、各詩人毎に係する詩話・筆記をまとめたところに特長がある。同様のものに『明詩話全編』（江蘇古籍出版社）がある。



# 履修方法とユニットプログラム、 履修モデル



### 3 受講登録上の注意

#### 1 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。クラスは掲示にて発表します。指定されたクラスを本登録してください。

**中国文学研究入門、漢語・漢文法、外国語科目（第1・第2）、リテラシー入門**

2. その他、1回生配当の登録必修科目を忘れずに登録してください。

#### 2 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスを本登録してください。

**初修外国語・応用** 第1外国語として初修外国語を選択したみなさんが履修します。クラスは掲示にて発表します。

**中国文学基礎講読** 指定されたクラスを登録してください。

2. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録してください（「履修要項」を参照）。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

**中国文学講読演習**

#### 3 回 生

1. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください（「履修要項」を参照）。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

**中国文学講読演習、ゼミナール（テーマリサーチ）** すでに前年度中に予備登録を済ませ許可を受けたクラスを本登録してください。

**外国文化講読（中国語）**

**中国文学講読演習**

#### 4・5回生、昼6～8回生

1. 下記の科目は、本年度の登録で卒業見込みができる方のみが受講できます。決定したクラスを本登録してください。

**中国文学演習、ゼミナール（テーマリサーチ）** すでに前年度中に予備登録を済ませ許可を受けたクラスを本登録してください。

**卒業論文** 卒論ゼミと同一のクラスを登録してください。

\* テーマリサーチ型ゼミナールは2001年度以降入学者のみが受講できます。

2. 下記の科目は、本年度の登録で資格取得の見込みができる方のみが受講できます。必ず本登録してください。

**(教)教育実習** 総合演習と同一のクラスを登録してください。7回生以上は、文学部事務室へ個別相談に来てください。

**(芸)博物館実習**

## 4 ユニットプログラム

文学部では2004年度より、皆さんの学び方の指針として、ユニットプログラムという考え方を提示することとしました。ユニットプログラムとは、**皆さんの所属する専攻・プログラムの特色を活かした将来像を念頭においたうえでの学び方・大学生生活の過ごし方の指針**です。具体的には、専攻・プログラム毎に以下のような3つのユニットを提示します。

### 総合教養形成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を中心としつつも、文学部の幅広い学問分野を広く修め、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

### 専門職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの特色を活かした専門的力量や技能などを形成し、それを活かしてどのような将来像を描けるか、を提示します。

### 研究職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を深く修め、将来、(大学教員などの)研究職を目指す方策を提示します。

また、文学部には10専攻3プログラムがありますので、専攻・プログラムの特性に応じた内容となっています。

そして、これはよく覚えておいて頂きたいのですが、**必ずしもこのユニットの想定する将来像だけが全てではない**、ということです。極端な話をすれば、文学部を卒業して、ロースクールに入って、弁護士になる事だってありえる選択技なのです(実際、司法試験に合格した文学部卒業生は過去にいますし、2004年度より設置されたロースクールは、法学部卒業生以外にも広く門戸を広げています)。皆さんの意欲次第では、どのような道も開けるでしょう。

では、なぜこのようなユニットプログラムを提示するかという趣旨は、皆さんが**皆さん自身の将来像をよく考えて、それに向かって有意義な(学問やそれ以外も含めた)学生生活を送れるようにしていただきたい**からなのです。目指す将来像が明らかになれば、それに向けた学生生活も充実することでしょう。

もちろん大学生生活を送っていく中で目指したい将来像が変わることはありえますし、それは全く問題ありません。したがって、**ユニットプログラムは一つを選択すると一つのユニットに所属するといったものではありません**。

今まで申し上げましたように、ここに提示するユニットはあくまでも例示です。これらを参考にして、皆さんが将来を考える一助になるよう願っております。

なお、「ユニットプログラム」は、本専攻を通じて身につく素養や経験を踏まえた卒業後などの想定されるキャリア形成とそのため学生の生活の指針であり、「履修モデル」は、卒業論文で取り扱う研究テーマをタイプ別に分類し、その分野で推奨する履修科目を挙げたものです。それぞれの目的は異なっており、混同しないように留意してください。

本専攻は、中国の悠久の歴史に生まれ、文学と思想の豊かな世界に広がるさまざまな問題を探求し、東アジアの伝統文化への理解を深め、日本のみならず、世界的な規模で活躍できる人材の育成を目指しています。中国では古代から現代に及ぶまで、文学、思想あるいは芸術・文化の領域に興味深い人間の営みが多様に表されています。人の世のことはおおよそ中国に備わると言えるほどです。学生諸君それぞれの知的関心は本専攻の学修を通して満たされ、そして培われた人間考察は将来いずれの分野で活躍する場合においても有意義に違いないでしょう。学生諸君の知的関心や志向、卒業後の進路希望を想定し、本専攻での学修プログラムを以下のような研究職養成型、高度職業人型、総合教養形成型の三つのユニットに分けました。なお最後に専門科目を列記しました。

## 1 総合教養形成型ユニット

### 【学生像・進路】

中国のみならず、日本あるいは広く東アジアの言語・文学・思想・芸術など諸文化に対する知的関心をもつ学生がこのユニットの対象となります。情報収集・処理能力、学び・考える問題探究の方法を習得すると共に情操の涵養をはかり、豊かな人間形成をめざしてもらいたい。四年間の学修を通して獲得したものは、将来、各職種の様々な部署に応用できるでしょう。具体的な進路としては公務員、一般企業(例えば対中国貿易会社・旅行業)などが考えられます。

### 【履修のポイント】

専攻専門科目の選択では、各自の関心に即して古典文学、白話・現代文学、中国思想関連の科目を履修し、そのほか日本文学や東洋史専攻・インス等で開講されている東アジア関係科目を積極的に履修して知見を広めるよう務めて欲しいものです。3回生からは本専攻のゼミだけではなく、テーマリサーチ型ゼミナールを履修することも選択肢の1つとなります。

中国語を習得して進路に役立てようとする学生は、専門科目として「中国文学講読演習」(2回生以上)の現代文学や「中国文学講読演習C」(3回生ゼミ)のほかの白話・現代文学関連の講義、中国語副専攻を選択するとよいでしょう。さらにイノベーション・プログラムの現代中国プログラムを履修することもできますし、語学留学を行うのも当然よい方法です。またパソコンを利用した情報処理能力は各方面の職種において要請されているので、それに対応する科目も受講すべきです。公務員・マスコミ志望者にはエクステンション・センターでの受講も役立ちます。

## 2 専門職養成型ユニット

### 【学生像・進路】

このユニットでは主として中学・高等学校国語科の教員、図書館司書、博物館学芸員をめざす学生、あるいは本学大学院言語教育情報研究科を志望する学生を想定しています。中国の文学・思想に関する知見を修め、漢文読解力の養成に務めた実力は国語教育等の現場で大いに発揮されるに違いありません。また古典・現代中国語の習得によって磨かれた言語感覚・国際的視野は、言語教育研究の分野においても活かされることでしょう。

### 【履修のポイント】

教職志望学生の専門科目履修においては、将来の漢字・漢文教育あるいは日本文学作品の授業を考え、専門科目の選択においては古典に重点を置く方がよいでしょう。司書・学芸員志望者も同様です。例えば「中国文学講読演習」(2回生以上)「同」(3回生ゼミ)や「中国文学演習」(4回生ゼミ)では古典のクラス、「中国文学特殊講義」(2回生以上)では古典文学を対象とする授業、そのほか「中国文学史」(2回生以上)、「中国哲学史」・「中国哲学特殊講義」(2回生以上)を選択することが望めます。また日本文学や日本史、東洋史専攻の科目の履修も心がけて欲しいものです。また、近年、教員採用で専修免許(学部卒業で得る免許を一種免許、修士課程修了で得る免許を専修免許と言う)の所持を重視するケースも多いので、大学院前期課程への進学も視野に入れておくとよいでしょう。

言語教育情報研究科を志す学生は、白話・現代文学の分野に比重をかけ、中国語の副専攻やイノベーション・プログラムの現代中国プログラムの履修、さらにできれば語学留学も行うという積極性が必要です。

## 3 研究職養成型ユニット

### 【学生像・進路】

大学院前期課程(本学では東洋思想専攻)に進学して修士号を取り、さらに後期課程(本学では東洋文学思想専攻)に進み学位を取得し、将来、大学等の研究教育機関で研究・教育職に就くことを志向する学生が該当します。また、大学院は前期課程のみで修了し、研究者の道には進まないが、専門性を活用する分野、例えば高等学校教員(国語専修免許取得)、公務員、出版・マスコミ・文化関係に進路を希望する学生向けのユニットです。

### 【履修のポイント】

専門科目においては、学問的関心から文学、思想の分野、また文言(古典語)白話(近世口語文学・現代文学)の分野、いずれかに研究方向を絞って系統的に学ぶこと(1の「科目の位置付け」1~4参照)が有効ですが、中国学の広範な知識を備える必要があるため、他分野にも亘る意欲的な履修が望めます。研究の重要な基盤は文献読解力ですから、その養成に務めなければなりません。(2004年度より大学院の開講科目「中国書講読」を学部の「中国文学講読演習」との共通開講にしているため、それを履修するのが望ましい)。また本専攻では中国語を第1外国語に指定し、現代中国語の習得をめざしています。白話系の研究を目指す人は当然として、古典研究を志向するものにも現在では高い水準の語学力が求められています。中国語副専攻を履修するなどして徹底した中国語学習に励んで欲しいものです。なお現在、中国学研究者においてもパソコンを活用した情報処理は必須となっており、この方面にも積極的に取り組む方がよいでしょう。

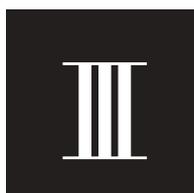
## 5 中国文学専攻モデル

(教養：教養科目、人文：人文科学総合講座科目、哲・心・その他：各専攻科目)

科目区分	必修	登録必修	モデル1 古典文学		モデル2 現代文学		モデル3 思想	
			中国文学専攻科目	その他科目	中国文学専攻科目	その他科目	中国文学専攻科目	その他科目
1 回 生		漢語・漢文論法		現代社会と法(教養) 自然と進化(教養) 社会学入門(教養) 生物の多様性(教養) 言語学・(人文) 文化人類学・(学際) 比較文化論・(学際) 中国史概論(人文) 歴史観の形成(教養) 新しい日本史像(教養) 民族と文明の美術史(学際) 宗教学概論・(人文)		メディアと現代文化(教養) 現代社会と法(教養) 自然と進化(教養) 言語学・(人文) 比較文化論・(学際) 美と芸術の論理(教養) 現代の世界経済(教養) 生物の多様性(教養) アジアの文学(人文) 中国史概論(人文) 文学と社会(教養) 現代の国際関係と日本(教養) 東アジアと朝鮮半島(教養) 東洋史概説・(東史)		哲学と人間(教養) 自然と進化(教養) 言語学・(人文) 文化人類学・(学際) 社会学入門(教養) 生物の多様性(教養) 中国史概論(人文) 人間性と倫理(教養) 論理と思考(教養) ジェンダー論(教養) 生命科学と倫理(教養) 宗教学概論・(人文)
2 回 生	中国文学講読演習	中国文学基礎講読	中国文学講読演習 中国文学史・ 中国文学特殊講義・	オリент美術史(学際) 東洋思想・(人文) 神話学・(人文) 民間文芸学(人文) 文化とポストコロナ ル批評・(学際) 日本文学とアジア(日文) 東洋史概説・(東史)	中国文学講読演習 中国文学特殊講義・ 中国文学史・	社会言語学・(人文) 近現代の諸相(学際) 日本演劇論(人文) 映画史(学際) 文化とポストコロナ ル批評・(学際) 日本文学とアジア(日文)	中国文学講読演習 中国哲学史・ 中国文学史・	民俗学・(人文) 東洋思想・(人文) オリент美術史(学際) 法思想史(人文) 社会思想史(学際) 東洋史概説・(東史)
3 回 生	中国文学講読演習	外国文化講読	中国哲学特殊講義・ 中国文学史・ 中国文学講読演習	ヨーロッパ文学史・(学際) 比較文学特論・(学際)	中国文学特殊講義・ 中国文学史・ 中国文学講読演習 C	ヨーロッパ文学史・(学際) 現代美術論(学際) 都市と農村(学際)	中国哲学特殊講義・ 中国文学特殊講義・ 中国文学講読演習	現代美術論(学際) 民族誌の諸問題(学際) 人間と環境(学際) 歴史認識・叙述の諸問題(学際)
4 回 生	中国文学演習・卒業論文							

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を取得できるわけではありません。

また、モデル表にある科目の履修セメスターも必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。



**学修を進めるにあたって**

## 1 文献資料室と共同研究室

文学部には、教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室が設けられています。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集団的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

### 人文系文献資料室

修学館地階にある文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻・コースやインスティテュートに関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や収書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と収書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。文献資料室の書庫は下記のとおり、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

書庫A 日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学・一般）

書庫B キング・サイズなどの大型資料類

書庫C 漢籍・埋蔵文化財・未製本カレント・明大本・和装本など 書庫Cの図書は閉架請求制です。

書庫D 哲学・心理学・英米文学

書庫E 西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・地方史・中国雑誌・洋雑誌

研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見をが期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、中央図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文、修士論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

### 専攻・インスティテュート共同研究室

専攻院生・学生が教員とともに、専攻の学問研究について自主的な共同研究をおこなう場として10専攻およびインスティテュートそれぞれに共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻・インスティテュートの教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接かかわりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている心理学・地理学・日本史学専攻の考古学コースでは、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日（土曜日・日曜日・祝日・夏期の一斉休業日、年末年始など）および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教務・事務にかかわって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前9時から午後9時30分まで利用できます。ただし、実際の時間は、専攻によって異なりますので、各専攻の規定に従ってください。共同研究室の運営や利用の仕方および、日常的な運営については、教員・学生・院生の三者で協議することにしており、相互に円滑で節度のある使用を心がけねばなりません。

## 2 クラスロッカーの使用法について

### (1) クラスロッカーについて

クラスロッカーは、研究入門、基礎講読、講読演習、演習などのクラス単位に必要なものを、一時的に保管しておくものです。例えば、研究入門の講義時に欠席者用レジュメなどを保管したりするために利用するものです。したがって、個人用の荷物を保管するようなことは禁止をしています。また、基本的に、カギをしめないで使用していただきますので、紛失しては困るものなどは収納しないようにしてください。

## (2) 使用の手順

1. 文学部事務室へ、クラス単位であらかじめ利用の申請し、使用するロッカーの場所を決めます。申請は随時受け付けますので、必要がある場合は、文学部事務室で手続きして下さい。  
オリエンテーション期間の「オリター懇談会」で選出する「クラス代表者」が、クラスを代表して手続きをするようにしてください。
2. 使用できる期間内は、必ず指定のロッカーを使用し、クラス単位で管理してください。
3. 使用期限が来れば、クラス単位で荷物の撤収を行ってください。

## (3) 注意事項

利用上以下の点に注意して下さい。

クラスロッカーは、事前の申請に基づいてクラス番号を付番し、クラス指定しますので、確認して下さい。

クラスロッカーは1クラス1ロッカーではありません。

ロッカーは整理整頓に心がけて下さい。複数クラスで利用をお願いした場合、必ず物品のクラス間違いがないようにして下さい。

物置ではありませんから、ロッカーに保管するのにふさわしくないものは入れないで下さい。また、施錠しませんので、貴重品など紛失しては困るものは入れないで下さい。

万一紛失・盗難にあった場合、大学は責任を負いませんので注意して下さい。

サークルなどの団体が無断で使用した場合は、速やかに撤去します。

クラスロッカーの利用期限は、翌年3月15日(休日の場合はその前日)までです。ロッカーにはいつている物はすべて各クラスの責任で移動して下さい。翌年3月16日以降は、文学部事務室の責任で物品の廃棄をおこないます。

## 3 セミナーハウスの正課用利用の手引き

### (1) セミナーハウスについて

立命館大学では、正課・課外活動などで活用して、多様な学生生活を通じて得られる「学びと成長」を支援する施設として、セミナーハウスがあります。ここでは簡単に紹介します。ぜひ各クラスで積極的に利用して下さい。

なお、今年の4月から6月にかけて、新入生のクラスとして合宿をする場合は、別途の手続きになりますので、(5)の説明を参照して下さい。

1. 衣笠セミナーハウス (立命館大学より徒歩5分)  
衣笠キャンパスに隣接したアカデミア立命21の中にあり、洋室の会議室と宿泊室および和室の会議室兼宿泊室を擁し、宿泊できる人数は最大で150名の収容力を持つ施設です。  
国際平和ミュージアムも併設していますので、見学を兼ねてご利用ください。(併設施設は学生証提示で無料)
2. エポック立命21(びわこ・くさつキャンパス内)  
BKICにもセミナーハウスがあります。

### (2) 施設の利用料金

正課で利用する場合は、宿泊料は無料となります。なお、正課以外でも担当教員の承認印を得ればクラス単位で利用する時は小集団クラス援助金で利用できます。

### (3) 施設の予約方法

利用にあたってはまず利用したいセミナーハウスに電話にて予約をしてください。利用日の3カ月前から1週間前(なるべく2週間前)までに、直接電話で利用期間・人数等を申請し、予約をしてください。(退館時に次回予約日の予約もできます)予約後の手続き等は、衣笠学生センター(研心館2階)に必要な書類がありますので、ご確認ください。

衣笠セミナーハウス：075-465-8110 エポック立命21：077-561-2700

#### (4) その他

正課以外で利用する場合は、宿泊料が必要です。詳しくは衣笠学生センターにてご相談ください。

#### (5) 新入生クラス合宿の手続きについて

4月から6月にかけては、クラス、ゼミが集中的に利用する可能性があるため、あらかじめ、学部枠が設けられています。新入生クラスが、クラス合宿を行いたい場合は、この「学部枠」内で優先的に予約することになります。この期間にクラス合宿を行いたいクラスの代表者は、文学部事務室学生係にご相談ください。

## 4 学生印刷室の利用について

### (1) 利用方法の説明

各小集団クラスでは、正課授業時に利用するレジュメ印刷の際に、学生印刷室に設置されている輪転機を利用することができます。輪転機は原稿1枚につき、10部以上の印刷をするときに利用できます。なお、原稿を作成する際にはB4もしくはA4にしてください。

文学部事務室前にある「小集団クラス印刷申請書」に必要事項を記載し文学部事務室窓口申請して下さい。(事前に小集団クラス担当者許可印が必要です。)

記入された「小集団クラス印刷申請書」と「学生証」を窓口提出して下さい。窓口設置されている受付台帳に記載した後、学生証と引き換えに「印刷機の鍵」をお渡しします。

輪転機は、清心館1階 学生談話室東北角の学生印刷室内にあります。

印刷用紙は、文学部事務室内東側にあります。申請した枚数をもって、印刷して下さい。(印刷に失敗する場合がありますので、若干余分に持って行ってください。学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。)

輪転機の利用方法は、学生印刷室内の掲示を確認してください。

輪転機の使用が終了したら、速やかに「鍵」を事務室窓口まで返却して下さい。引き換えに学生証を返却します。(未使用の印刷用紙は、事務室内東側の位置に戻してください。)

### (2) 「学生印刷室」の利用時間帯

1. 印刷は以下の時間帯で使用するようして下さい。終了時間には必ず印刷が終了するようして下さい。

授業日の 9:00~21:30

窓口時間等は変更する場合がありますので、掲示等注意して下さい。

### (3) 利用にあたっての諸注意

鍵は他人に貸し出さないで下さい。また、他人の学生証でカギを貸すことはできません。

「学生印刷室」は印刷物を散らかさないよう、整理整頓に心がけてください。

輪転機が故障したら、機械を無理に操作せずに、事務室まで連絡してください。

不正使用は絶対に行わないで下さい。もし不正利用が判明した場合、所属クラスの輪転機利用禁止、利用代請求などを行います。

学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。不正に利用したことが発見された場合は、賠償していただきます。

## 5 自主ゼミ援助制度について

### (1) 自主ゼミ制度について

授業で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、施設貸与や資料作成の費用を援助する制度です。

### (2) 参加資格

文学部生・文学研究科生の登録が可能です。他学部・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

### (3) 援助内容

1. 経済援助 生協で利用できるコピーカード 1,000円分
2. 施設貸与援助 学習会・研究会のための施設貸与および自治会輪転機使用（用紙は各自で準備）
3. 自主ゼミ用掲示板の使用 清心館1Fにある自主ゼミ掲示板を使用することができます。

### (4) 受付期間・受付方法

登録の受付は、年2回、4月と10月に文学部事務室または文学部自治会（清心館1F）にて行います。  
登録手続きの詳細については、別途掲示にてお知らせします。（4月上旬および9月中旬に掲示予定です）

### (5) その他

自主ゼミ活動についてはセメスター単位で登録を受け付けます。また、活動終了時に、活動実績・成果を報告してもらいます。

## 6 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて

### (1) 「小集団教育推進補助費」の目的とその適用の範囲について

各小集団クラスにおける学生の自発的・集団的学習、研究活動を行うために必要な以下の目的について補助を行います。「小集団教育補助費」では下記の例のような使用が可能です。その執行については、各小集団において会計担当者を決めて文学部事務室に届け出て下さい。会計担当者には「クラス資料費伝票」を交付しますので、会計担当者が責任をもって管理・執行するようにしてください。

生協発行のコピーカード（1回の購入限度額5,000円、1クラス15,000円まで）

クラス共通のフロッピーディスク（1クラス2,500円まで）

クラス教材用VTRテープ（1クラス2,500円まで）

その他会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」等を参照してください。

### (2) 補助額

1クラスにつき年額15,000円です。

### (3) 適用期間

毎年4月伝票交付日～翌年2月末まで利用できます。

### (4) 使用の流れについて

**各クラスで、クラス代表者とともに、「クラス会計」担当者2名を選出してください。**

（1回生は、オリエンテーション期間の「オリター懇談会」において選出してください。）

**クラス責任者は、事務室が主催する説明会に参加してください。**

（説明は、文学部自治会が招集するクラス代表者会議（仮称）を通じて行います。連絡があった場合には、必ず参加するようにしてください。なお、その際には、印鑑を持参の上参加してください。）

### 「伝票」を交付します。

本学生協（中川会館地下1階）にて物品等の購入ができます。使用方法は、会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」および「伝票」の裏書を参照してください。1クラス年間15,000円まで使用できます。使用期間は「伝票」交付日から翌年2月末までになります。伝票をなくした場合は、事務室に申し出てください。

### 「伝票」を返還します。

使用期限（翌年2月末日）を満了した場合は3月15日（休日の場合はその前日）までに、全額（15,000円）を使用した場合は、直ちに「伝票」を事務室に返還してください。

## 7 清心館「学生談話室」の利用について

清心館の一階に「学生談話室」があります。これは、学生の交流・休憩、クラス活動、自習等を行うための施設であり、文学部が「学生談話室利用申し合わせ」に基づいて文学部自治会と共同管理しつつ、日常的な運営を学生の自治に委ねています。利用者が相互に譲り合って、気持ちよく利用できるように努めてください。

1. 「学生談話室」は全面禁煙です。
2. 紙コップや空き缶などゴミは必ずゴミ箱へ捨てるようにしてください。
3. 椅子や机などを勝手に動かしたり、汚損したりしないようにしてください。
4. 「学生談話室」を利用して行事や情宣活動を行うことは許可制です。利用を希望する団体は、文学部自治会に相談の上、文学部事務室の許可を得てください。なお、許可された場合も「学生談話室利用申し合わせ」を遵守して利用するようにしてください。

## 8 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発行されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和15）年10月には、ついに第60号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりました。しかし戦後間もない混乱期の1947（昭和22）年7月には、早くも『立命館文學』第61号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和27）年1月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足。会則を制定しました。1969（昭和44）年には、新たに学生部会が発足し、更に充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2005（平成17）年3月現在で、第589号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、学部学生の卒業論文のタイトルや院生の修士論文の概要、及び院生のおこなった書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非常勤講師の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価をうけているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・卒業論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

「人文学会」はまた院生・学生の自主的研究の助成をも目的としており、そのための事業として、学生部会による研究誌の発行、あるいは公開講演会の開催なども行なっています。学生諸君は人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。みなさんが学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加されることをつよく望みます。

## 9 文学部事務室について

### (1) 文学部事務室とは

文学部事務室は、文学部の学生のみなさんが必要な手続きをおこなったり、必要な提出物を提出する等、事務手続を行う窓口であるほか、試験や授業に関する連絡を行ったり、履修・進路・留学などの相談に応じる窓口でもあります。なお、電話での対応は、基本的に行っておりませんので、直接の来室、または、メールによる相談でお願いします。

学生印刷室にある輪転機を使用したいとき（学生証が必要です）

各専攻・プログラムの共同研究室を利用したいとき（学生証が必要です）

学割・証明書の発行（可能な限り、証明書自動発行機で購入してください。）

休学・復学・退学や追試験、受講登録、教育実習登録など、各種の手続き書類の配布・受付

その他

文学部事務室を通じて、立命館大学が提供するさまざまなプログラムやサービス、施設などを活用し、積極的・主体的な学修・学生生活をおくってください。

### (2) 窓口時間

授業のない期間については、時期によって窓口時間が異なりますので、よく確認してください。

【開講期間中の窓口時間】 9：00～11：30 および 12：30～18：30

2005年度より窓口時間帯が18：30までとなります。ただし、夜を中心に学修する学生、社会人学生で上記時間内に来室する事が難しい場合は、18：30～21：30に来室してください。

なお、17：00以降は学芸員課程についての対応はできませんので注意してください。

### (3) 文学部事務室ホームページ

【立命館大学文学部事務室ホームページ】 URL <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/jimu/>

文学部事務室では、主な情報をホームページで提供していますので、ご覧になってください。

（提供情報の一例）定期試験時間割、休講情報、教職課程・学芸員課程・学部独自インターンシップなどの諸連絡、その他

また、文学部事務室では、メーリングリストによる各種案内や休講情報も、随時行っています。1回生オリエンテーションでの「書類交付ガイダンス」でみなさんに配布する「RAINBOW ID通知書」のIDを活用して、情報を入力してください。